

令和7年度 全国学力・学習状況調査
大阪市の結果について

詳細版

大阪市教育委員会事務局

【目次】

Ⅰ. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要	…2
2. 教科に関する調査結果	…10
(1) 小学校国語	…11
(2) 中学校国語	…15
(3) 小学校算数	…19
(4) 中学校数学	…23
(5) 小学校理科	…28
(6) 中学校理科	…32
3. 質問調査結果	…36
(1) 大阪市教育振興基本計画における指標	…37
(2) 学校外での過ごし方	…40
(3) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組 ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	…42
(4) 主体的な学習の調整（※）に関する分析 ※児童生徒質問項目16と36を「主体的な学習の調整」と設定し、非認知能力の一つと見なして分析した。	…47
(5) ICTを活用した学習 ①ICTを活用した学習状況 ②授業におけるICTの活用 ③デジタル学習基盤を前提とした学習活動について	…50



I. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要



令和7年度 全国学力・学習状況調査 大阪市の結果

1.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2.調査実施日 令和7年4月14日(月)～17日(木)

3.調査対象

- ①小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童
小学校 283校 17,661人（※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む）
- ②中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒
中学校 131校 15,391人（※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む）

4.調査事項

- ① 児童生徒：教科調査【国語、算数・数学、理科】/質問調査
- ② 学校：質問調査

5.調査問題

- ・学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信

6. 今年度の調査の特徴

- ・CBT調査（※）の導入【中学校理科】
- ・多様な児童生徒の状況把握
- ・生徒質問でのランダム方式の試行
- ・結果公表の内容、スケジュールの改善

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

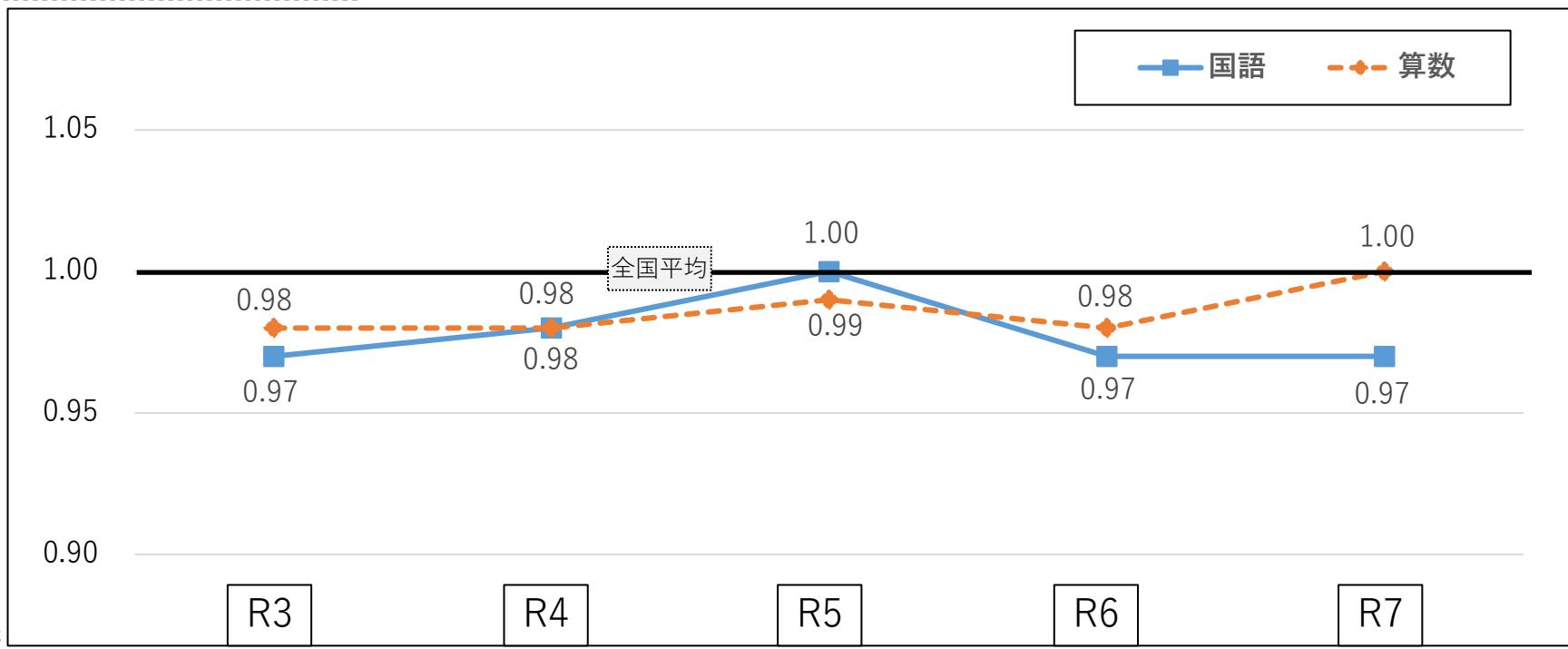
小学校・教科(国語・算数)の平均正答率・対全国比

小学校
(国語・算数)

○全国(公立)の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R3				R4				R5				R6				R7			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比																
国語	63	63	64.7	0.97	64	64	65.6	0.98	67	66	67.2	1.00	66	66	67.7	0.97	65	65	66.8	0.97
算数	69	70	70.2	0.98	62	63	63.2	0.98	62	62	62.5	0.99	62	63	63.4	0.98	58	58	58.0	1.00

対全国比の経年比較



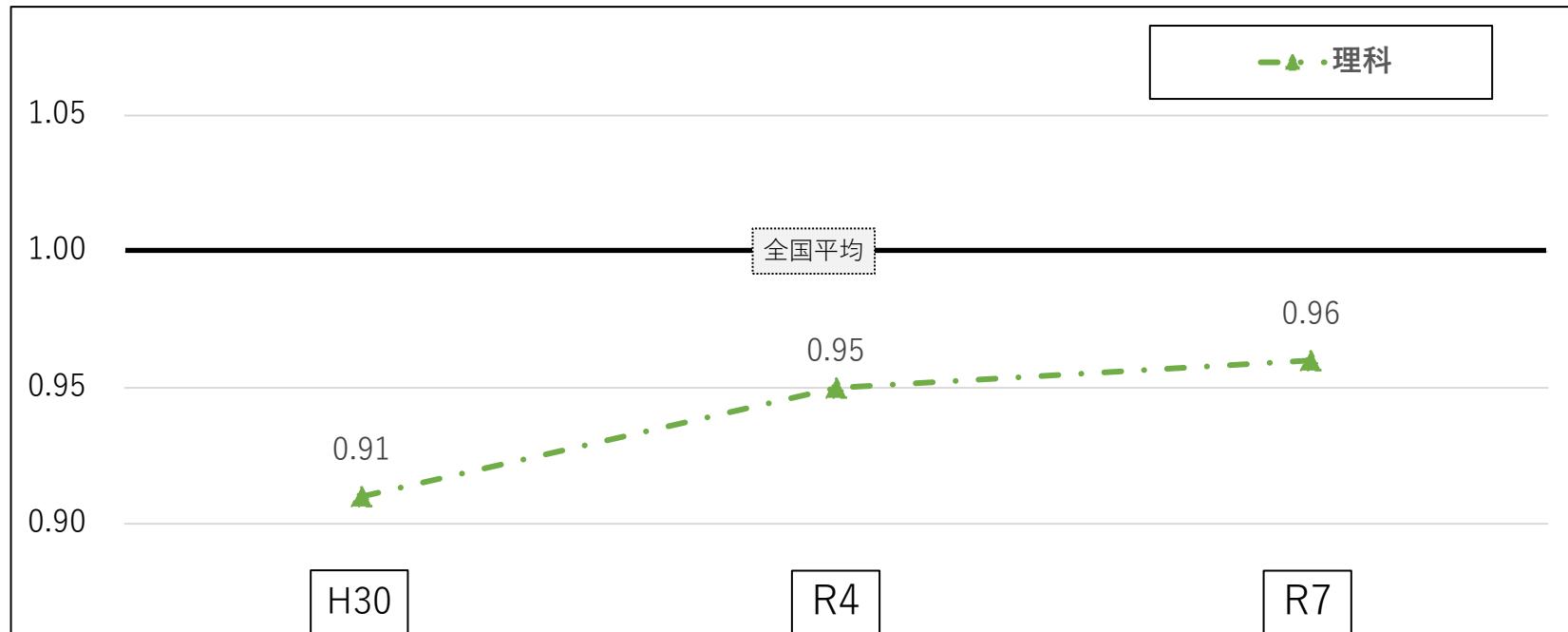
小学校・教科(理科)の平均正答率・対全国比

小学校 (理科)

- 全国(公立)の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。
- 小学校理科における過去2回分は、平成30年、令和4年に実施されていました。

	H30				R4				R7			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比
理科	55	57	60.3	0.91	60	60	63.3	0.95	55	55	57.1	0.96

対全国比の経年比較



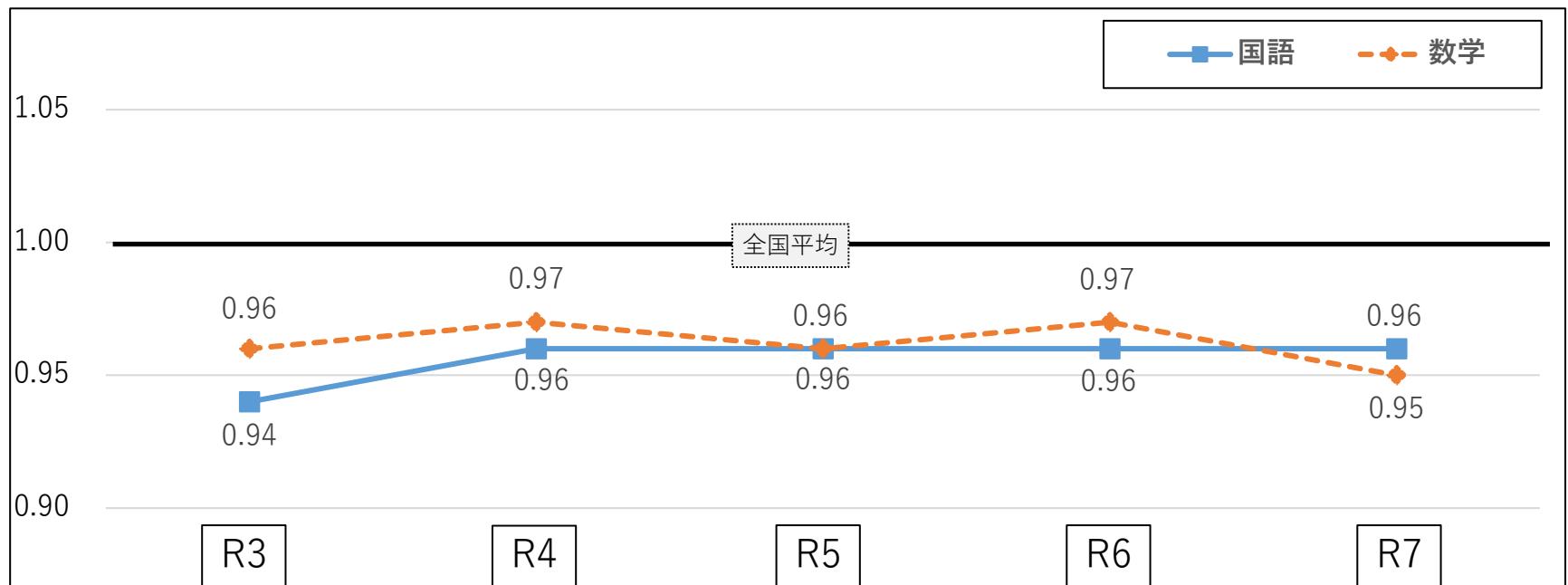
中学校・教科(国語・数学)の平均正答率・対全国比

中学校
(国語・数学)

○全国(公立)の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R3				R4				R5				R6				R7			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比																
国語	61	62	64.6	0.94	66	67	69.0	0.96	67	68	69.8	0.96	56	57	58.1	0.96	52	52	54.3	0.96
数学	55	56	57.2	0.96	50	51	51.4	0.97	49	50	51.0	0.96	51	51	52.5	0.97	46	47	48.3	0.95

対全国比の経年比較



中学校・教科(理科)の平均IRTスコア・IRTバンド分布

中学校 (理科CBT)

○中学校理科はCBTにて実施しています。

○IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較することができます。

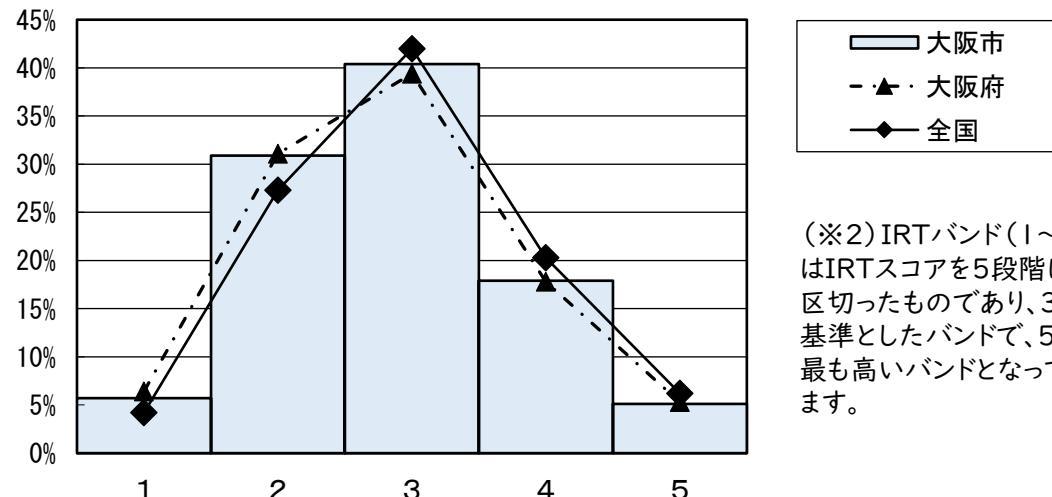
詳細は文部科学省サイト【[「中学校理科」IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット](#)】をご覧ください。

【平均IRTスコア(※1)】

		R7		
		大阪市	大阪府	全国
理科		489	487	503

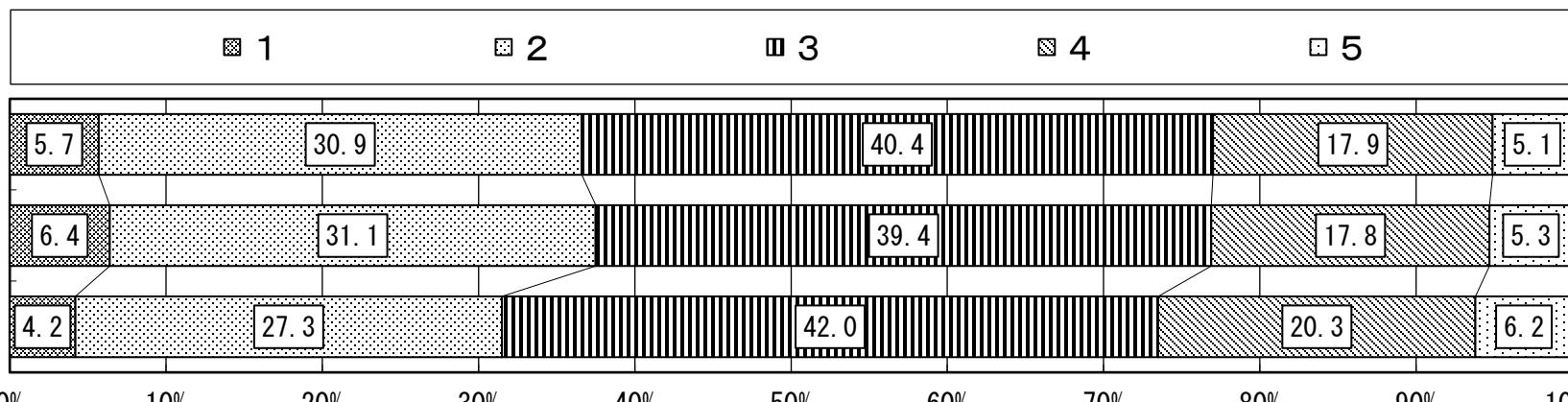
(※1) IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

【IRTバンド分布グラフ(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)】(※2)



(※2) IRTバンド(1~5)はIRTスコアを5段階に区切ったものであり、3を基準としたバンドで、5が最も高いバンドとなっています。

【IRTバンド分布比較】



【小学校】学力層に着目した児童の割合

小学校

※全国の児童全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分I・区分II・区分III・区分IVの4つに分け分析しました。

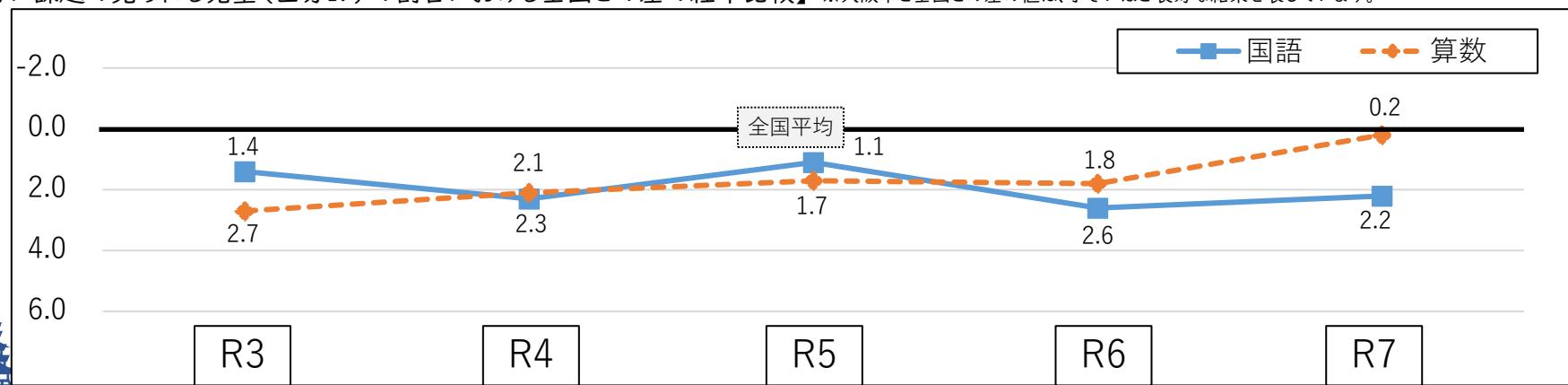
なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

※大阪市と全国との差の値は、区分I・区分IIについては差が大きいほど、区分III・区分IVについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

	国語														
	R3			R4			R5			R6			R7		
	大阪市	全国	全国との差												
区分I	33.7	37.1	-3.4	24.5	28.4	-3.9	26.6	27.1	-0.5	25.9	29.9	-4.0	25.3	27.7	-2.4
区分II	24.5	24.1	0.4	24.7	24.5	0.2	27.3	28.1	-0.8	26.3	25.8	0.5	25.0	26.0	-1.0
区分III	19.4	17.9	1.5	27.6	26.2	1.4	21.0	20.8	0.2	20.6	19.7	0.9	29.7	28.5	1.2
区分IV	22.3	20.9	1.4	23.2	20.9	2.3	25.1	24.0	1.1	27.2	24.6	2.6	20.0	17.8	2.2

	算数														
	R3			R4			R5			R6			R7		
	大阪市	全国	全国との差												
区分I	29.9	31.4	-1.5	28.4	30.2	-1.8	29.6	30.0	-0.4	31.9	33.8	-1.9	26.0	25.3	0.7
区分II	20.6	22.1	-1.5	21.8	21.7	0.1	19.2	20.1	-0.9	17.9	18.5	-0.6	25.2	25.6	-0.4
区分III	25.3	25.0	0.3	24.0	24.3	-0.3	30.0	30.5	-0.5	28.4	27.7	0.7	28.5	29.1	-0.6
区分IV	24.2	21.5	2.7	25.8	23.7	2.1	21.2	19.5	1.7	21.8	20.0	1.8	20.3	20.1	0.2

【学力に課題の見られる児童(区分IV)の割合における全国との差の経年比較】※大阪市と全国との差の値は、小さいほど良好な結果を表しています。



【中学校】学力層に着目した生徒の割合

中学校

※全国の生徒全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。

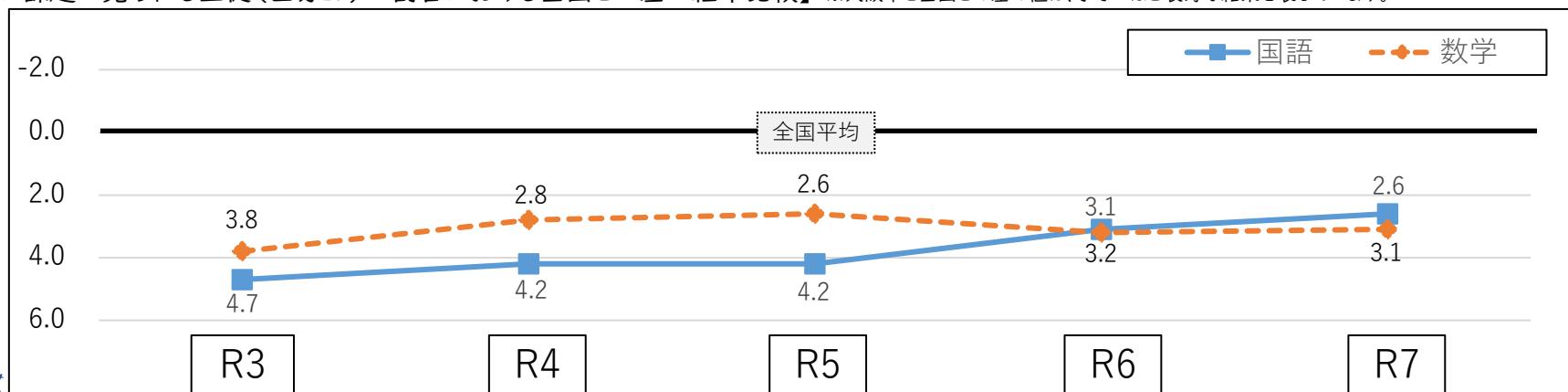
なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

区分	国語														
	R3			R4			R5			R6			R7		
	大阪市	全国	全国との差												
区分Ⅰ	29.1	34.5	-5.4	26.4	31.2	-4.8	30.1	33.4	-3.3	30.1	33.5	-3.4	22.8	25.8	-3.0
区分Ⅱ	26.1	26.8	-0.7	26.8	28.4	-1.6	23.0	24.2	-1.2	21.0	21.2	-0.2	26.9	27.5	-0.6
区分Ⅲ	21.4	20.0	1.4	21.1	19.0	2.1	23.3	23.0	0.3	26.9	26.5	0.4	25.1	24.2	0.9
区分Ⅳ	23.4	18.7	4.7	25.6	21.4	4.2	23.6	19.4	4.2	22.0	18.9	3.1	25.1	22.5	2.6

区分	数学														
	R3			R4			R5			R6			R7		
	大阪市	全国	全国との差												
区分Ⅰ	27.6	30.4	-2.8	28.6	30.5	-1.9	24.8	27.3	-2.5	25.9	27.3	-1.4	25.1	27.0	-1.9
区分Ⅱ	18.8	20.0	-1.2	26.3	27.5	-1.2	22.5	24.0	-1.5	27.1	29.3	-2.2	24.7	26.1	-1.4
区分Ⅲ	31.2	31.0	0.2	23.4	23.0	0.4	32.5	31.1	1.4	23.5	23.1	0.4	23.4	23.3	0.1
区分Ⅳ	22.4	18.6	3.8	21.8	19.0	2.8	20.2	17.6	2.6	23.5	20.3	3.2	26.9	23.8	3.1

【学力に課題の見られる生徒(区分Ⅳ)の割合における全国との差の経年比較】※大阪市と全国との差の値は、小さいほど良好な結果を表しています。





2. 教科に関する調査結果

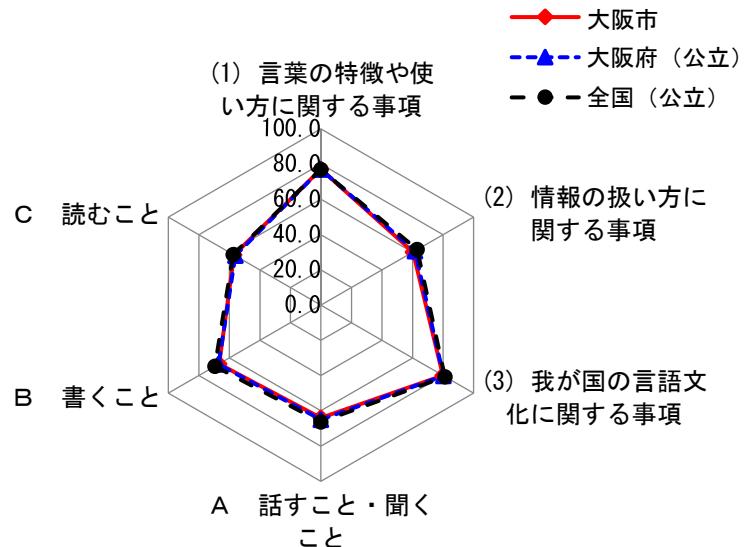


教科に関する調査結果【小学校国語】

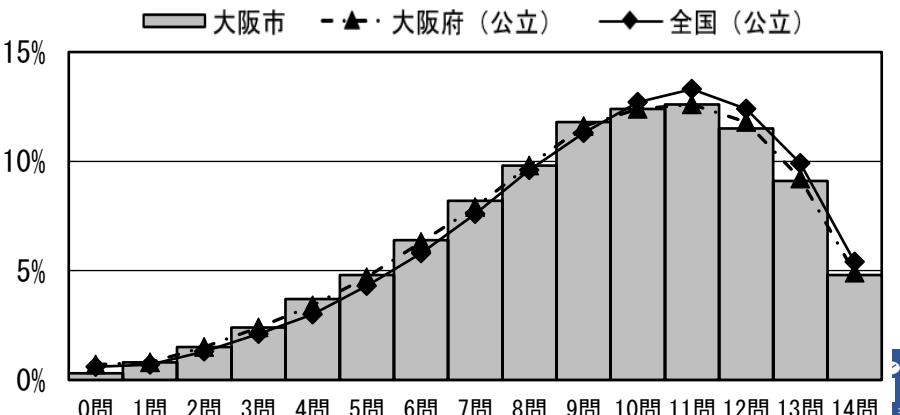
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	9.1	65	2.8	10.0	3.1	11問
全国(公立)	9.4	66.8	3.3	10.0	3.0	11問

＜分類・区別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.1
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	60.4
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	79.9
	思考力、判断力、表現力	A 話すこと・聞くこと	3	64.0
		B 書くこと	3	66.7
		C 読むこと	4	56.9
評価の観点	知識・技能	4	73.6	74.5
	思考・判断・表現	10	62.0	63.8
問題形式	選択式	9	62.7	64.7
	短答式	3	78.6	78.5
	記述式	2	57.0	58.8



＜小学校国語の児童の正答数分布グラフ＞



分析の ポイント (成果)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことはできる。また、無解答率も、全国に比べると低い。

具体的な設問例 大問2 (四)

解答の分析

- アの正答率 82.3%
全国(公立) 81.6%

無解答率 6.9%
(全国(公立) 7.2%)

- イの正答率 71.9%
全国(公立) 72.1%

無解答率 4.0%
(全国(公立) 4.3%)

正答

四 四
イ ア
暑 好
(い) (み)

相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

イの誤答例:「熱」「厚」
同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。

四 山田さんは、「ちらし」読み返し、習つて いる漢字が に しまし た。次 の 部ア、イを漢字に書き直すこ と 部が し よ う。アひらがなになつて いた 部ア、イを漢字に書き直すこ と 部が し よ う。

学習指導のポイント

○漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。

教科に関する調査結果【小学校国語】

分析の ポイント (課題①)

○目的や意図に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。

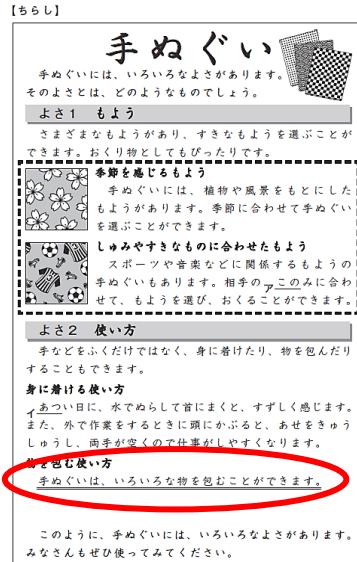
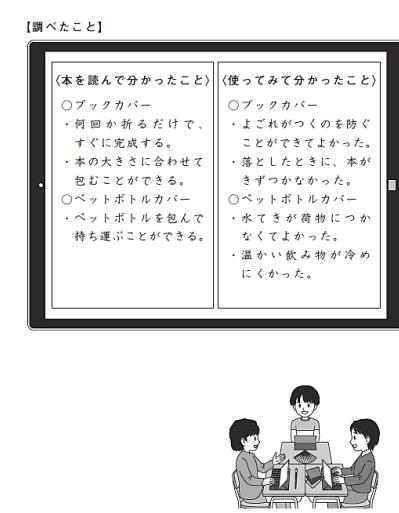
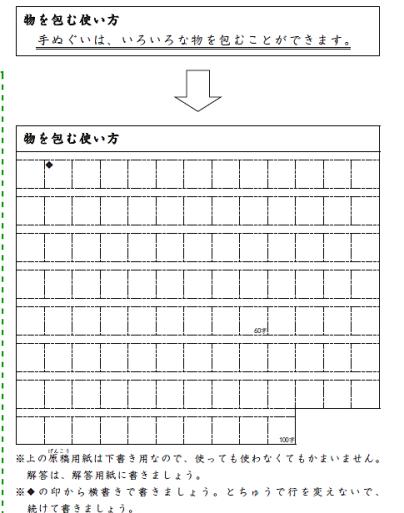
具体的な設問例 大問2 (三)

解答の分析

• 正答率 57.7%
全国（公立）61.3%

【誤答例】

- ① すべての条件は満たしているが、字数制限が満たされていない。
 - ② 【調べたこと】の片方しか書いていない。
 - ③ 【ちらし】の下線部はくわしくかけているが、条件が満たされていない。



指導改善のポイント

- 文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることが重要である。
友達と話し合い、読み手の立場から「どこをくわしくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」ということを中心にアドバイスし合う場面を設定すると効果的である。



教科に関する調査結果【小学校国語】

分析の ポイント (課題②)

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問1ー

解答の分析

• 正答率 50.1%
全国(公立) 53.3%

- 正答【4】を選択した児童は、小森さんの聞きたいことと清川さんと町田さんの話を関連づけ、伝え合う内容を検討することができている。
- 誤答【3】を選択した児童は、小森さんの「聞くことができるかもしれないよ。」という発言などから、自分たちが聞きたい意図よりも、相手が答えやすいように質問を考えていると捉えた児童がいたと考えられる。

4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

「話し合いの様子」の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考え、しましたが、最も適切なものを「1から4までのなかで、その番号を書きましょう。」としました。

1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

2 複数の質問を明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。

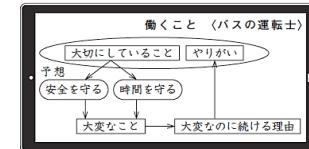
3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。

4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

指導改善のポイント

○知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要である。また、知りたいことを聞くという目的に加えて、聞くときの場面や状況を児童が意識することも大切である。

本市における誤答率… 28.6% 11.7% 9.2%



1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることになりました。バスの運転士と話す小森さんは、どの問いかけて答えることを選んでいます。次の「話し合いの様子」と「話し合いの記録」をよく読んで、どの問いかけて答えることを選んでいます。

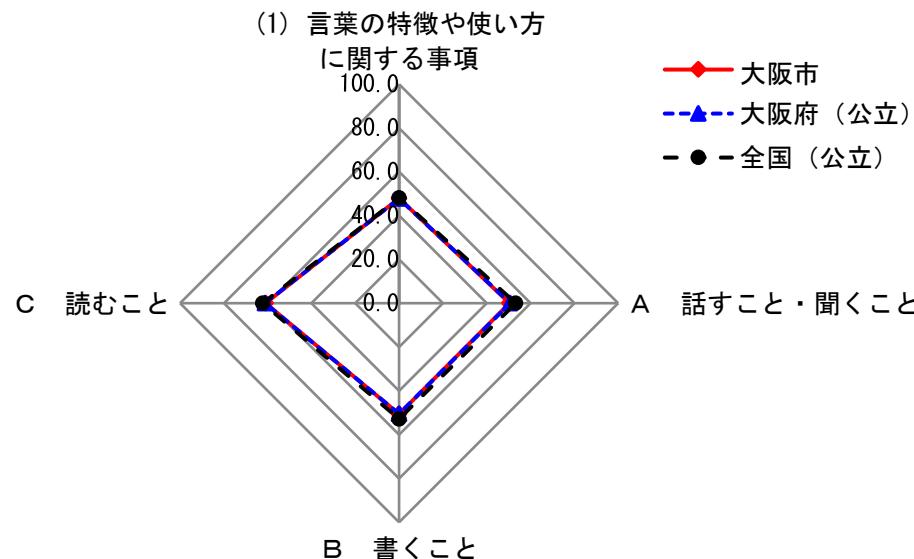


教科に関する調査結果【中学校国語】

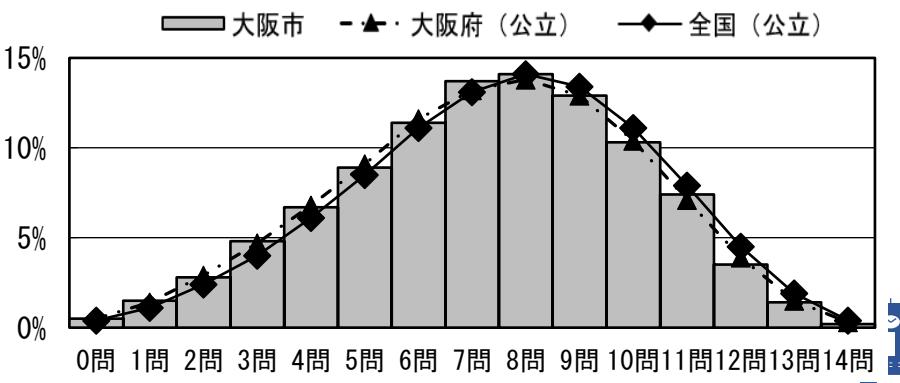
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	7.3	52	6.8	7.0	2.7	8問
全国(公立)	7.6	54.3	6.7	8.0	2.7	8問

＜分類・区別別集計結果＞

学習指導要領の領域	分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
				大阪市	全国(公立)
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.9	48.1
		(2)情報の扱い方に関する事項	0	-	-
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-
	思考力、判断力、表現力	A 話すこと・聞くこと	4	50.4	53.2
		B 書くこと	5	50.6	52.8
		C 読むこと	3	61.0	62.3
評価の観点	知識・技能		2	47.9	48.1
	思考・判断・表現		12	53.1	55.3
問題形式	選択式		8	62.3	63.9
	短答式		2	73.3	73.6
	記述式		4	22.0	25.3



＜中学校国語の生徒の正答数分布グラフ＞



教科に関する調査結果【中学校国語】

分析の ポイント (成果)

- 事象や行為を表す語句についての理解について成果が見られた。
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに成果が見られた。

具体的な設問例 大問3三 大問4一

正答率 57.7% [全国(公立) 57.3%]

一箇所、漢字の誤りがあることに気付きました。三上さんの修正の仕方を参考にして、誤つて書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。

さて、先日くだり、申は、私たちの職場体験活動に協力してください。ありがとうございます。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもつていなかつたのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかなの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

学習指導のポイント

- 事象や行為、心情を表す語句について生徒が理解するためには、様々な語句について取り上げ、語句の量を増やすとともに、話や文章の中でどのように使用されているかを考えることが大切である。
- 書いた文章を読み返す必然性がある言語活動（お礼の手紙を書き、読み手の立場から文章を読み返す等）を設定し、既習の事項を生かして文章を整える学習活動が考えられる。

正答率 61.5%
[全国(公立) 61.0%]

解答類型
1…3.6%
2…10.4%
4…23.9%

3
「しきりと」の意味として最も適切なものを、次の1から4までのなかから一つ選びなさい。
4 3 2 1 寂しげに
改めて何度も注意深く

（問題文抜粋）
そのうちに今度は兄の子供が出掛けに行きました。兄は弟と違つて気長な子供でしたから「大丈夫、樅木の実がもう紅くなっている」と安心して、ゆっくり構えて出掛けに行きました。兄の子供が木の実を拾いに行きましたと、高い枝の上にいた樅鳥がまた大きな声を出しまして、「遅過ぎた。遅過ぎた」と鳴きました。兄の子供が木の実を拾いに行きましたと、高い枝の上にいた樅鳥がまた大きな声を出しまして、「遅過ぎた。遅過ぎた」と鳴きました。

4

一 三上さんは【手紙の下書きの一部】に

三上さんの修正の仕方を参考にして、誤つて書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。



教科に関する調査結果【中学校国語】

分析の ポイント (課題①)

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問2 (四)

○発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、条件にしたがってどのような助言をするか、自分の考えを書く。

②四 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の□□□の内容をより分かりやすく伝えるために、〈スライド⑤〉を工夫したいと考え、あなたに助言を求めています。あなたなら、どのような助言をしますか。あの[工夫の仕方]のAからCまでの中から1つ選び(どの[工夫の仕方]を選んでもかまいません。)、条件1と条件2にしたがって、村田さんへの助言を書きなさい。

【村田さんのスピーチ】の□□□

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。

〈スライド⑤〉



【工夫の仕方】

- A 〈スライド⑤〉に、言葉を加える。
- B 〈スライド⑤〉のイラストを修正したり、イラストを付け加えたりする。
- C AとBとを組み合わせる。

条件1 選んだ[工夫の仕方]について、どのように工夫するかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で工夫したことにより、どのようにわかりやすくなるかについて、□□□の内容を具体的に取り上げて書くこと。

正答率 18.5% [全国 (公立) 23.2%]
無解答率 4.6% [全国 (公立) 4.0%]

誤答のうち条件1を満たしていない: 2.9%

誤答のうち条件2を満たしていない: 21.2%

誤答のうち条件1・2ともに
満たしていない: 52.7%

指導改善のポイント

○伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用することが重要である。
○話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか等、効果的な資料や機器の活用を通じて、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わるスライドになっているかを振り返る学習活動が考えられる。



分析の ポイント (課題②)

○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られた。

具体的な設問例 大問3 (四)

○「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く。

【正答の条件】

- ① どのような効果があるのかを書いている。
- ② ①のように考えた理由を、「 」の部分のような『あとに続く話』が、「一 榎木の実」にはあるが、「二 釣の話」にはない」という展開を踏まえて書いている。
- ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

正答率 14.9% [全国(公立) 17.1%]
無解答率 28.8% [全国(公立) 28.1%]

誤答のうち条件2を満たしていない: 34.3%
誤答のうち条件3を満たしていない: 0.1%

3四 で囮まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかつた場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になつていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると書きますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

「なんごの榎木の下には好い実が落ちていましょう。沢山お拾いなさい。序に、私も一つ御褒美を出しますから、それも拾つて行つて下さい」と言いながら青い斑の入つた小さな羽を高い枝の上から落としてよこしました。

二人の兄弟は榎木の実ばかりでなく、柵鳥の美しい羽を拾い、おまけにその大きな榎木の下で、「丁度好い時」までも覚えて帰つて来ました。

柵鳥は首を傾げ、このありさまを見ていきましたが、

「なんごの榎木の下には好い実が落ちていましょう。沢山お拾いなさい。序に、私も一つ御褒美を出しますから、それも拾つて行つて下さい」と言いながら青い斑の入つた小さな羽を高い枝の上から落としてよこしました。

二人の兄弟は榎木の実ばかりでなく、柵鳥の美しい羽を拾い、おまけにその大きな榎木の下で、「丁度好い時」までも覚えて帰つて来ました。

指導改善のポイント

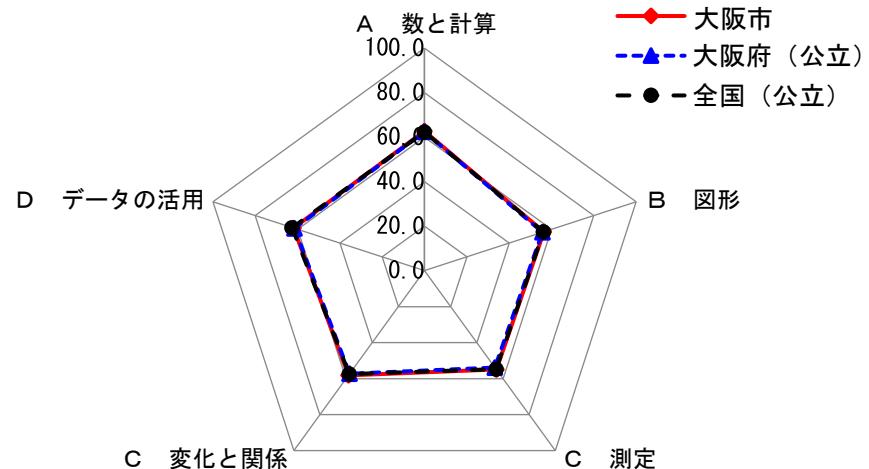
- 物語全体の構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になつてているのか、そのことがどのような効果につながるかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。
- あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動が考えられる。

教科に関する調査結果【小学校算数】

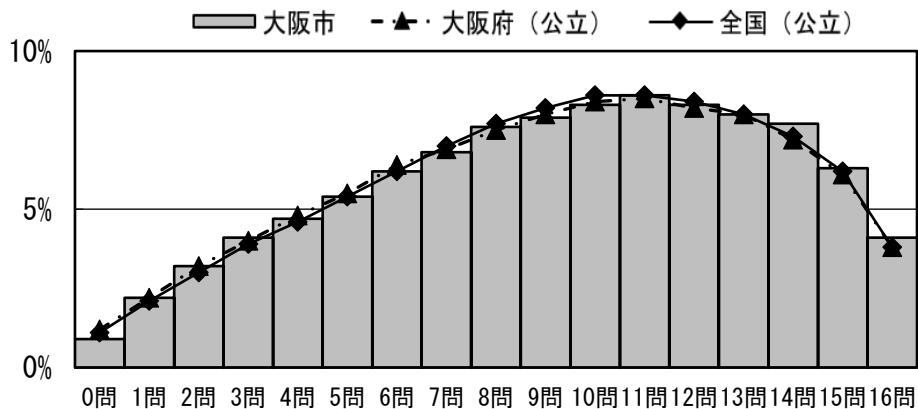
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	9.3	58	3.3	10.0	4.1	11問
全国(公立)	9.3	58.0	3.6	10.0	4.0	11問

＜分類・区別別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	62.7	62.3
	B 図形	4	56.4	56.2
	C 測定	2	54.9	54.8
	C 変化と関係	3	58.2	57.5
	D データの活用	5	61.9	62.6
評価の観点	知識・技能	9	65.7	65.5
	思考・判断・表現	7	48.5	48.3
問題形式	選択式	6	67.4	67.2
	短答式	6	64.4	64.0
	記述式	4	35.0	34.9



＜小学校算数の児童の正答数分布グラフ＞



分析の ポイント (成果)

- 「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことができている。

具体的な設問例 大問4 (4)

- 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。

増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の⑦にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1、「増加後の量」が「増加前の量」の110%になることが捉えられている。
または、「増加後の量」が「増加前の量」の1.1倍と捉えられている。

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問4(4)	43.1	40.9	1.054

学習指導のポイント

- 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが大切である。



教科に関する調査結果【小学校算数】

分析の ポイント (課題①)

○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。

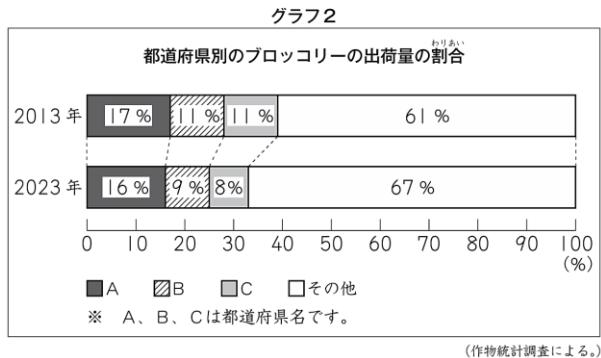
具体的な設問例 大問1 (2)

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問1(2)	28.3	31.0	0.913

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかがわかります。



2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

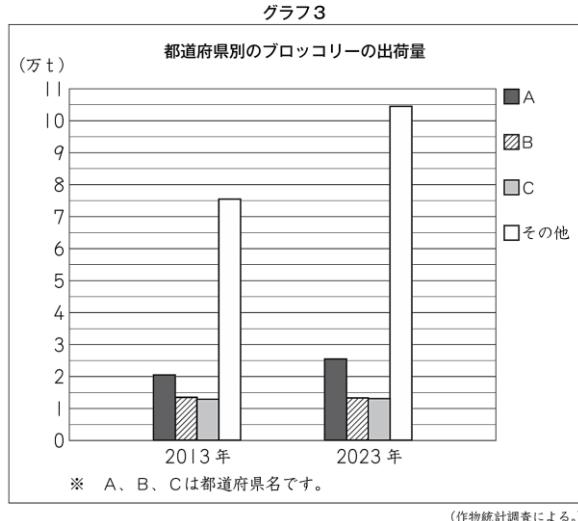
ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。

【誤答】都道府県Aのブロッコリーの出荷量の増加を問われているが、グラフ3ではなくグラフ2に着目し、出荷量の割合が減っていることから、出荷量は減っていると判断している。

指導改善のポイント

○様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切である。



教科に関する調査結果【小学校算数】

分析の ポイント (課題②)

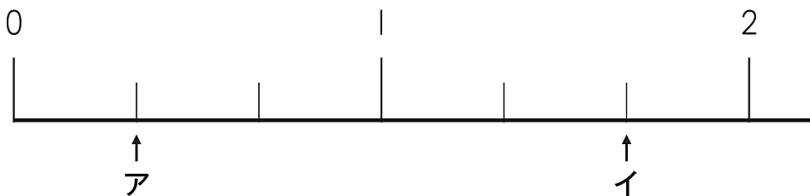
○異分母の分数の加法の計算をすることはできているが、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題が見られた。

具体的な設問例 大問3 (3)

○数直線上に示された数を分数で書く。

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問3(3)	34.7	35.0	0.991

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



【誤答】

- ①アを $\frac{1}{3}$ 、イを $\frac{5}{6}$ 又は $\frac{2}{3}$ と解答
②アを $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{6}$ 以外で分子が1である分数、イを $\frac{5}{3}$ 又は1と $\frac{2}{3}$ 以外の分数と解答

【誤答例分析】

- ①アについては0から1までが3等分されていることから、
 $\frac{1}{3}$ であると捉えることはできているが、イについては0から2までが6等分されていることから $\frac{5}{6}$ であると誤って捉えていると考えられる。または1から2までが3等分されていることから $\frac{2}{3}$ と誤って捉えていると考えられる。
②アについては、1目盛り目のため、分子が1であると捉えることはできているが、ア・イともに、0から1までが何等分されているかが捉えられていないと考えられる。

指導改善のポイント

○0から1までが何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにすることが大切である。その上で、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つかで考えることができるようにすることも大切である。

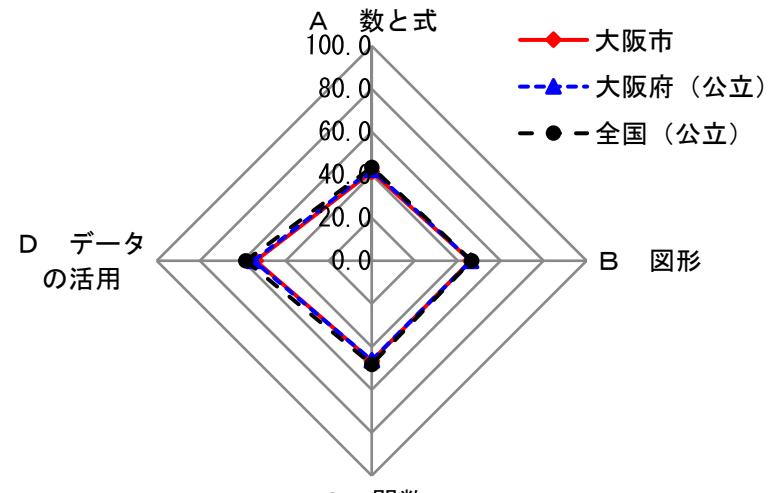


教科に関する調査結果【中学校数学】

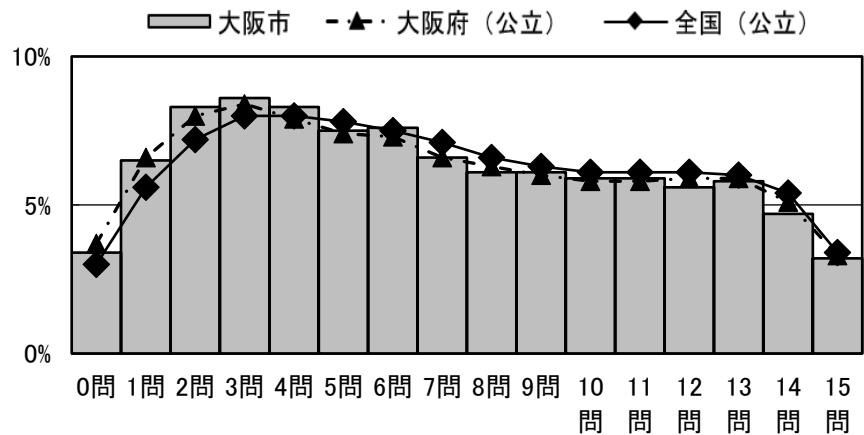
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	6.9	46	11.2	6.0	4.3	3問
全国(公立)	7.2	48.3	10.6	7.0	4.2	4問

＜分類・区別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と式	5	41.4	43.5
	B 図形	4	46.1	46.5
	C 関数	3	46.6	48.2
	D データの活用	3	54.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	52.2	54.4
	思考・判断・表現	6	37.2	39.1
問題形式	選択式	3	51.5	54.0
	短答式	7	49.8	52.0
	記述式	5	38.0	39.6



＜中学校数学の生徒の正答数分布グラフ＞



教科に関する調査結果【中学校数学】

分析の ポイント (成果)

○多角形の外角の意味を理解し、外角の大きさを求めることに成果が見られた。

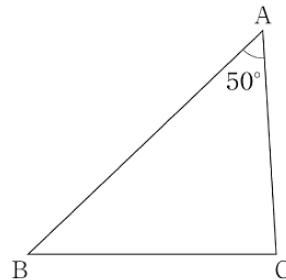
具体的な設問例 大問3

○ $\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める。

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問3	61.9	58.1	1.065

数学③ 外角

下の図の $\triangle ABC$ で、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。



解答の分析

無解答率 1.9% [全国(公立) 2.0%]

正答	130° と解答	… 61.9%
誤答例	① 310°	… 23.0%
	② 50°	… 2.1%
	③ 260°	… 0.1%
	④ 360°	… 1.1%

誤答例分析

誤答例①の中には、頂点Aにおける外角を、 360° から頂点Aにおける内角をひいた角であると捉えている生徒がいると考えられる。

学習指導のポイント

○多角形の外角の意味を理解し、外角の大きさを求められるようにするために外角を図に表したり、角の大きさを測ったりする活動を取り入れ、生徒が外角の意味を理解することが大切である。また、多角形の内角や外角の関係から多角形の角についての性質を考察し、説明できるような活動を取り入れることが考えられる。



分析の ポイント (課題①)

○数学の用語の意味の理解に課題が見られた。

具体的な設問例 大問5

○ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録

階級(m)	度数(人)
以上 未満	
5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問5	33.7	42.5	0.793

解答の分析

無解答率 9.6% [全国(公立)9.4%]

正答	0.25と解答…33.7%
	① 10 … 22.7%
誤答例	② 4 … 6.1%
	③ 30 … 7.1%

誤答例分析

誤答例①の中には、階級の相対度数と階級の度数を混同している生徒がいると考えられる。

指導改善のポイント

○数学の用語の意味の理解を深める活動を重視することが重要。例えば、相対度数の意味を生徒が理解できるようにするためには、大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性と意味について理解できるように指導することが大切である。



教科に関する調査結果【中学校数学】

分析の ポイント (課題②)

○式の意味を読み取り、成り立つ事象を見いだし、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問6 (2)

○3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。

数学6 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること

(連続する3の倍数の和)

6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6 のとき & 3 + 6 = 9 \\ 12, 15 のとき & 12 + 15 = 27 \\ 30, 33 のとき & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 結菜さんは、これらの計算の結果から、「連続する2つの3の倍数の和は、いつも9の倍数になる」と予想しました。

しかし、この予想は成り立ちません。この予想が成り立たないことを下のように説明します。下の(1)から(3)までに当てはまる整数をそれぞれ書き、説明1を完成なさい。

説明1

連続する2つの3の倍数が、例えば、(1)、(2)のとき、(1)+(2)を計算すると、和は(3)となり、9の倍数ではない。
したがって、「連続する2つの3の倍数の和は、いつも9の倍数になる」という予想は成り立たない。

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、nを整数として、連続する2つの3の倍数を3n、3n+3と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問6(2)	24.3	25.7	0.946

解答の分析

無解答率 27.3% [全国(公立) 24.9%]

正答の条件

「○○は、◇◇である。」という形で次の(a),(b)について記述しているもの。

(a)○○が、「連続する2つの3の倍数の和」である。

(b)◇◇が、「奇数」である。

指導改善のポイント

○文字を用いた式の意味を読み取り、事象の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。例えば、変形した式が $2 \times (\text{整数}) + 1$ と変形できることを確認した上で、「2の倍数に1を加えた数」つまり「奇数である」という結論を見いだせるような学習活動を設定することが考えられる。



分析の ポイント (課題③)

○条件を変えた場合の証明について、統合的・発展的に考え、評価・改善することについて課題が見られた。

具体的な設問例 大問9 (2)

○平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。

数学9 証明を振り返り、統合的・発展的に考察すること (平行四辺形)

右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、BE=DFとなる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$

よって、 $AF \parallel EC$ ①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ②

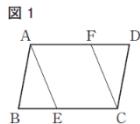
仮定より、
 $DF = BE$ ③

②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ④

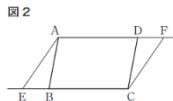
④より、
 $AF = EC$ ⑤

①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、

四角形AECFは平行四辺形である。



(2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fをそれぞれとっても、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのなかから1つ選び、正しく書き直しなさい。



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$②
ウ	仮定より、 $DF = BE$③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$④
オ	④より、 $AF = EC$⑤
①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形AECFは平行四辺形である。	

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問5	33.3	36.3	0.917

解答の分析

無解答率 7.2% [全国(公立)7.2%]

正答	エを選択し、②、③より、 $AD + DF = BC + BE \cdots ④$ と記述しているもの。(AF=ECを導けるものを含む) …33.3%
誤答例	<p>① エを選択し、上記以外の解答 …12.9%</p> <p>② エを選択し、無解答 … 6.1%</p> <p>③ オを選択し、無解答 … 3.2%</p> <p>④ ア、イ、ウのいずれかを選択し、無解答 …11.6%</p> <p>⑤ 無解答 … 7.2%</p>

誤答例分析

誤答例①では、「 $AF - DF = EC - BE$ 」という解答がみられた。この中には、書き直す部分は捉えているが、「 $AF = AD + DF$ 」、「 $EC = BC + BE$ 」と捉えることができなかった生徒がいると考えられる。

指導改善のポイント

○証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見いだし、証明を評価・改善するような学習活動を取り入れることが考えられる。例えば、ICT機器を活用して点を動かし、図形の形が変わる様子を可視化する学習指導が効果的である。

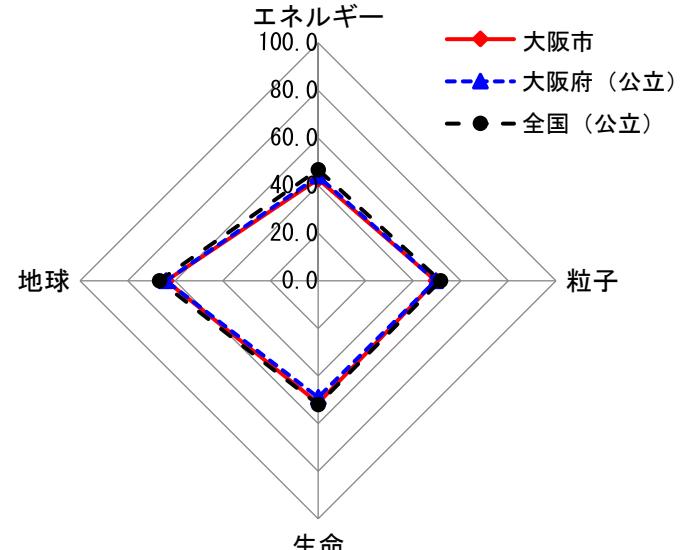


教科に関する調査結果【小学校理科】

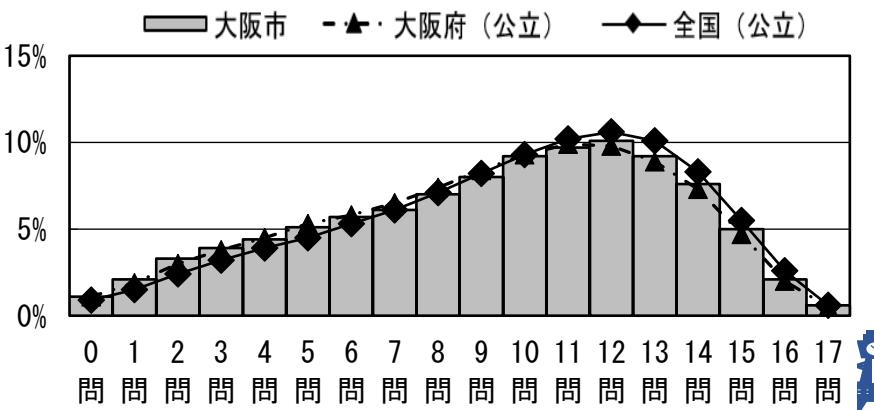
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	9.3	55	3.0	10.0	4.0	12問
全国(公立)	9.7	57.1	2.8	10.0	3.8	12問

＜分類・区別別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	42.7
		「粒子」を柱とする領域	6	49.5
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	51.4
		「地球」を柱とする領域	6	63.8
評価の観点	知識・技能	8	52.8	55.3
	思考・判断・表現	9	56.6	58.7
問題形式	選択式	11	52.9	54.7
	短答式	4	65.6	69.7
	記述式	2	43.8	45.2



＜小学校理科の児童の正答数分布グラフ＞



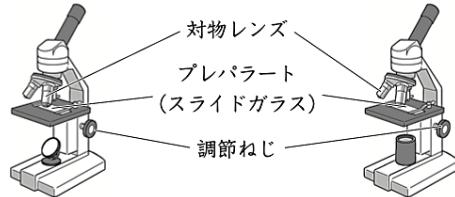
教科に関する調査結果【小学校理科】

分析の ポイント (成果)

○顕微鏡で観察するときに適切な像にするための顕微鏡に関する操作の技能について成果が見られた。

具体的な設問例 大問3 (2)

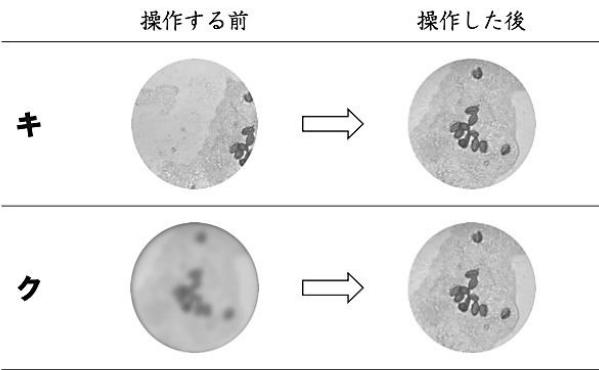
てるみさんたちは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することにしました。



けんび鏡を操作すると、観察する物の見え方が変わるね。



(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。



学習指導のポイント

○顕微鏡で観察する際には、操作方法を丁寧に確認し、プレパラートを動かしたり、ピントを合わせたりなどの様々な状態を想定して実際に操作する活動を設けることが必要である。

正答

キ…2 ク…4

解答の分析

正答率 46.6%
[全国(公立) 45.6%]

キの正答率 85.2%
[全国(公立) 85.7%]
クの正答率 49.3%
[全国(公立) 48.1%]

教科に関する調査結果【小学校理科】

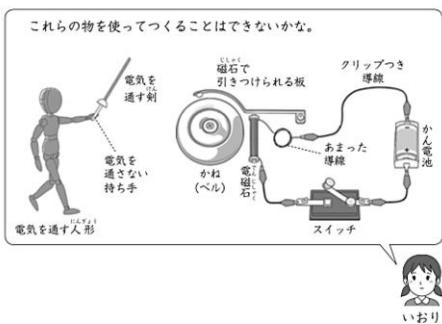
分析の ポイント (課題①)

○電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。

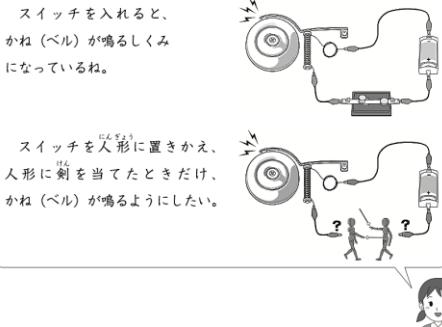
具体的な設問例 大問2 (2)

○電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ。

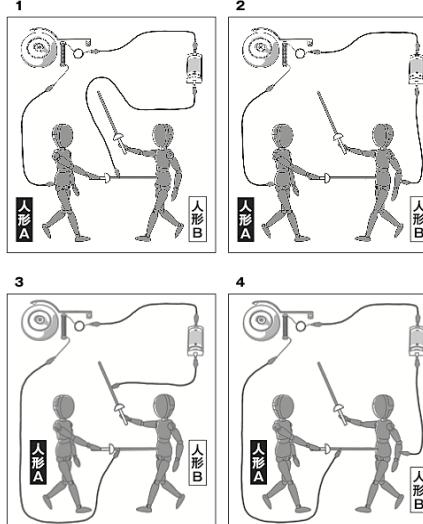
てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



いおりさんは、かね(ベル)が鳴るしくみについて考えています。



(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのなかから1つ選んで、その番号を書きましょう。



正答

4

解答の分析

正答率 39.8%
[全国 (公立) 42.9%]

解答類型

1 … 7.4%
2 … 20.2%
3 … 31.8%

指導改善のポイント

○解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切である。
○児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である。

教科に関する調査結果【小学校理科】

分析の ポイント (課題②)

○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし自分の考えを表現することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問3 (4)

○レタスの種子の発芽の条件から気づいたことを基に、てるみさんが見いだした新たな問題について書く。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、いつも発芽しなかったよ。

たかひろ

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

たかひろさんが行った実験

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

解答の分析

正答率 28.6% [全国（公立）29.9%]
(正答の条件)

- ①〈条件〉から、日光または肥料について1つ選んで記述している。
- ②レタスの発芽に関し、疑問を記述している。

解答類型

- ・①記述あり、②記述無し・・・33.2%
- ・上記以外の解答・・・・・・・24.8%
- ・無解答・・・・・・・12.2%

指導改善のポイント

○自分の考えを持って学習活動に取組めるような学習計画を立て、誰もが理解できるような言い回しを用いて表現したり、考えた過程が分かるように表現したりする活動を通して、自分の考えを適切に表現する指導が必要である。

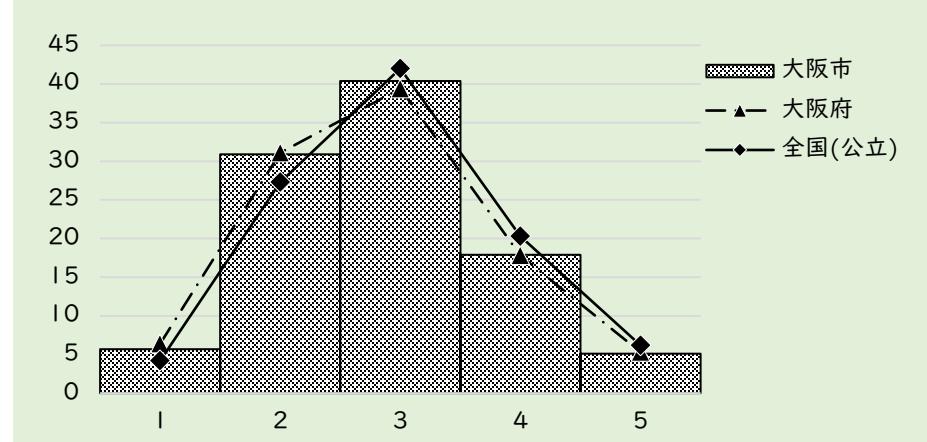


教科に関する調査結果【中学校理科】

<IRTスコア集計値>

	平均IRTスコア	標準偏差
大阪市	489	124.1
大阪府	487	127.8
全国(公立)	503	124.0

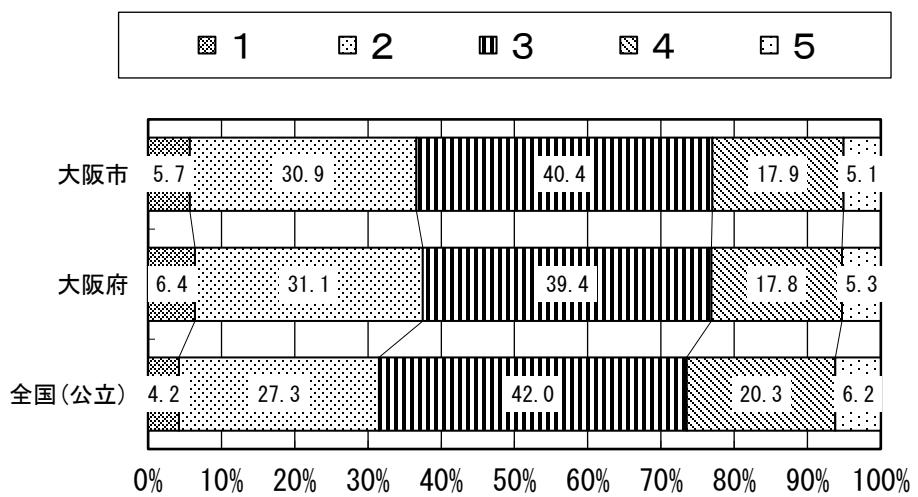
<IRTバンド分布グラフ>



<IRTバンド集計値>

IRT バンド	生徒数	割合(%)			
		大阪市	大阪市	大阪府	全国 (公立)
5	767	5.1	5.3	6.2	
4	2,707	17.9	17.8	20.3	
3	6,095	40.4	39.4	42.0	
2	4,665	30.9	31.1	27.3	
1	865	5.7	6.4	4.2	

<IRTバンド分布比較>



教科に関する調査結果【中学校理科】

分析の ポイント (成果)

○どのIRTバンドにおいても、正答した生徒の割合は全国より高く、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識は身に付いているといえる。

具体的な設問例 大問1 (1)

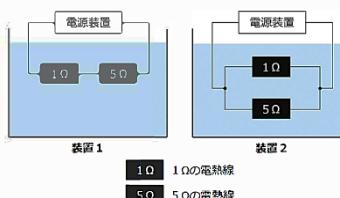
理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。

精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。

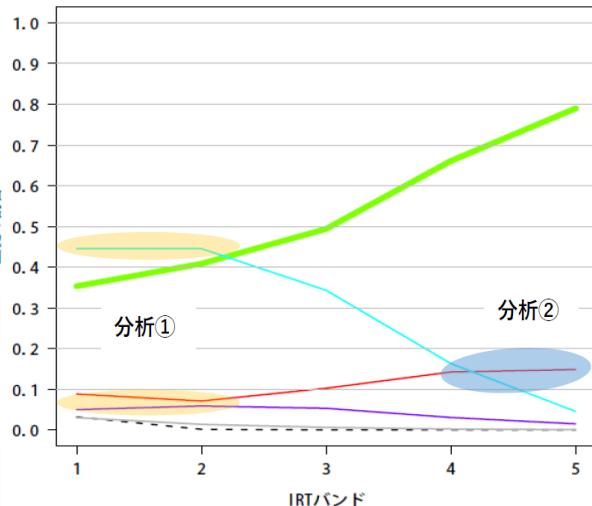
電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。

より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



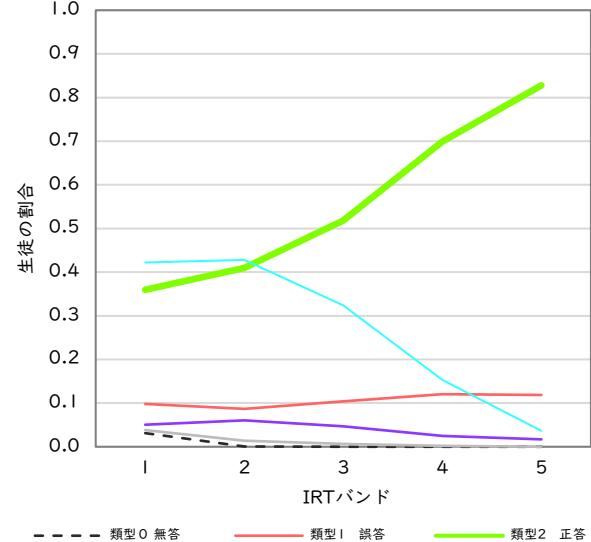
G-P分析図 (※)

全国 (公立) 正答率: 51.9%



G-P分析図 (※)

大阪市正答率: 54.2%



(1)回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

学習指導のポイント

○指導に当たっては、これまで学習した知識を活用して、発生する熱量と直列回路・並列回路の合成抵抗とを関連付けて知識の概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。その際、身近な生活と関連を持たせながら、生徒の興味・関心を向上させることが大切である。

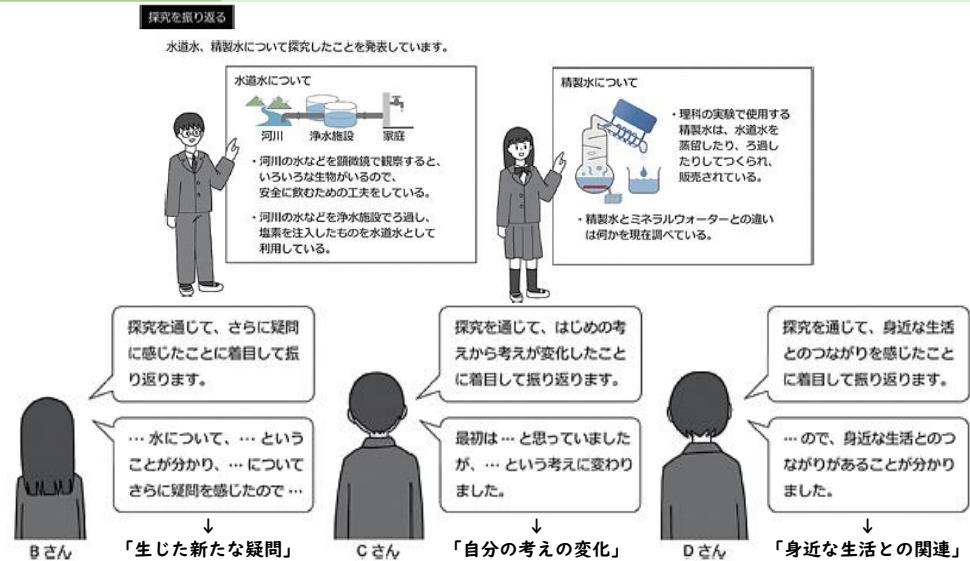
教科に関する調査結果【中学校理科】

分析の ポイント (課題①)

○自分自身の考え方を持つことと、それを表現することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問1 (6)

○水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。



(6) 上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

	正答率	無解答率	
全国（公立）	79.4%	9.9%	
大阪市	72.9%	12.8%	
I R T バ ン ド (内 数)	1 2 3 4 5	9.8% 51.4% 85.3% 95.0% 99.0%	54.7% 23.6% 5.4% 0.8% 0.3%

指導改善のポイント

○IERTバンドごとの無解答率の偏りが見られることからも、指導に当たっては、普段から発表など他者の意見を聞き、生徒一人一人が自身の学習を振り返ることで自身の考え方を表現する学習場面を設定するなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をしていく必要がある。

教科に関する調査結果【中学校理科】

分析の ポイント (課題②)

- 問題を見いだし表現することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問1 (2)

- 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する。

課題を設定する



【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?



【Aさんの疑問】調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか?



課題は、
()にしようと思います。

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、()に適切な課題を書きなさい。

課題

	正答率	無解答率	
全国 (公立)	46.2%	8.0%	
大阪市	41.9%	9.7%	
I R T バ ン ド (内 数)	1 2 3 4 5	7.4% 28.7% 46.8% 57.2% 68.4%	44.5% 17.4% 4.1% 0.8% 0.3%

指導改善のポイント

- 指導に当たっては、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題が解決できるかどうかに着目し、解決可能で科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定し、探究の過程を重視した学習活動となるように、授業改善を続けていくことが大切である。



3. 質問調査結果



大阪市教育振興基本計画における指標①

安全・安心な教育の推進 (基本的な方向①)

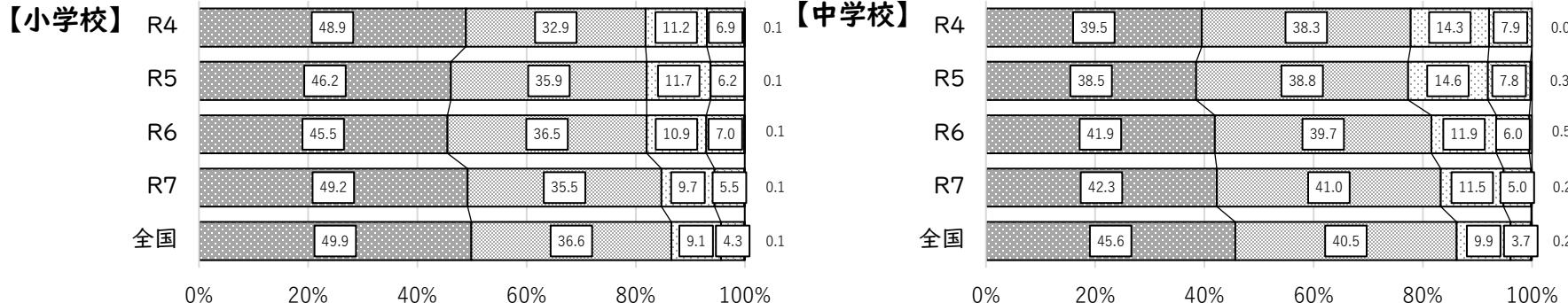
児童生徒質問項目[12]

「学校に行くのは楽しいと思いますか。」

令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校85.0% 中学校82.0%

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



安全・安心な教育の推進 (基本的な方向①)

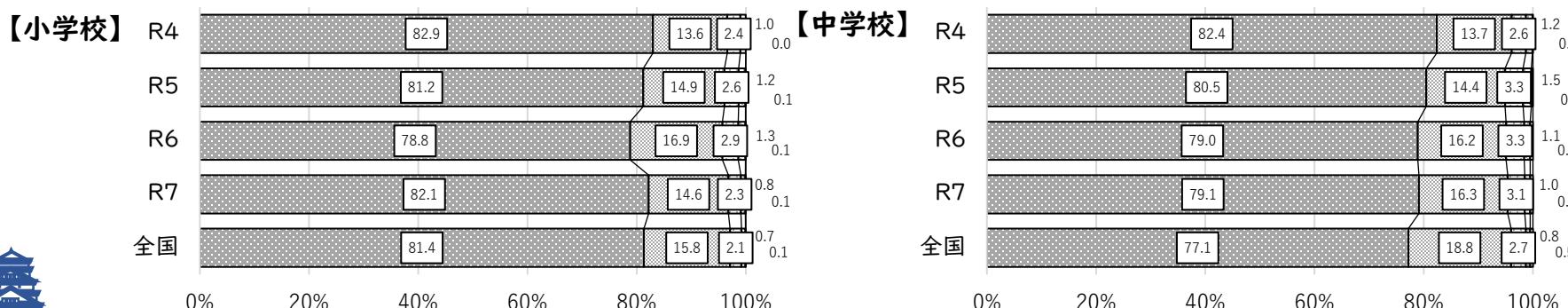
児童生徒質問項目[9]

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」

令和7年度末目標値「当てはまる」と回答した割合 小学校90.0% 中学校85.0%

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると、小中学校ともに上回っています。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



大阪市教育振興基本計画における指標②

豊かな心の育成 (基本的な方向②)

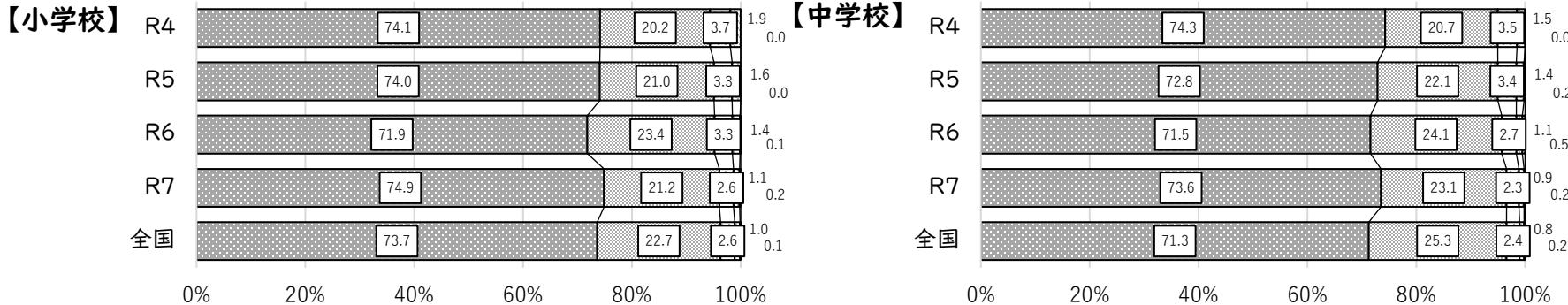
児童生徒質問項目[11]

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校96.0% 中学校95.0%

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると、小中学校ともに同等でした。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



豊かな心の育成 (基本的な方向②)

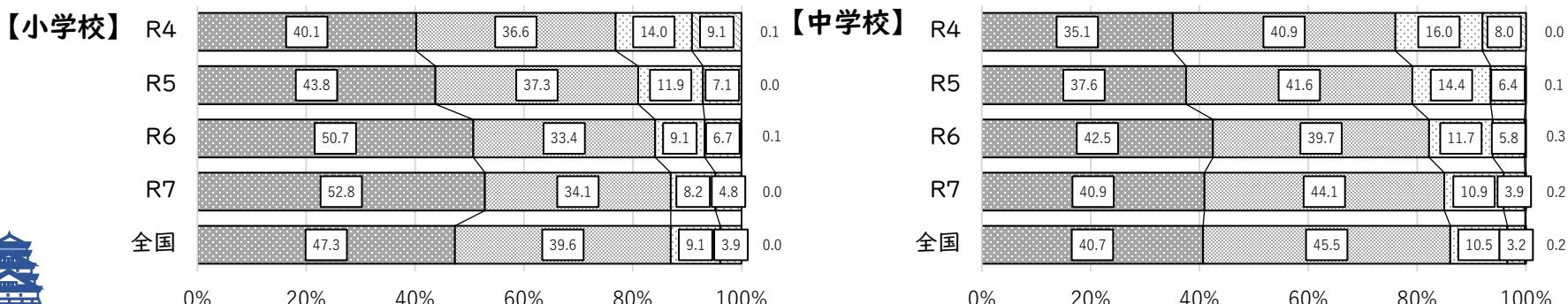
児童生徒質問項目[5]

「自分には、よいところがあると思いますか。」

令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校77.0% 中学校77.0%

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると、小学校では同等でした。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



大阪市教育振興基本計画における指標③

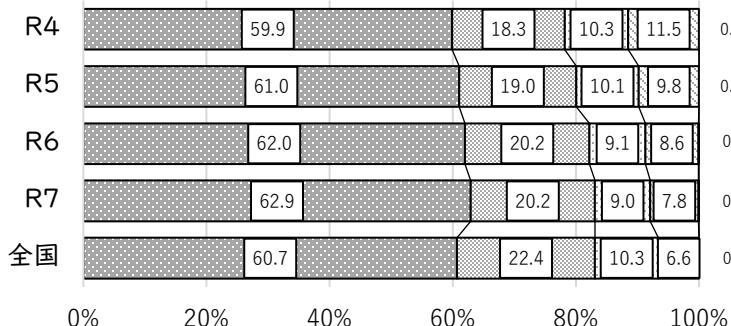
豊かな心の育成 (基本的な方向②)

児童生徒質問項目[7]
「将来の夢や目標を持っていますか。」
令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校80.5% 中学校70.0%

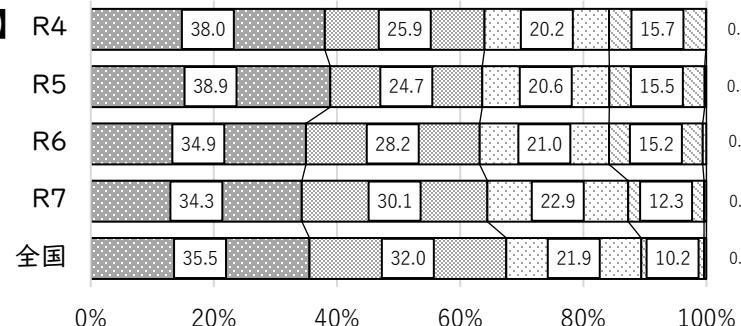
「将来の夢や目標を持っている」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると、小学校では同等でした。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答

【小学校】



【中学校】



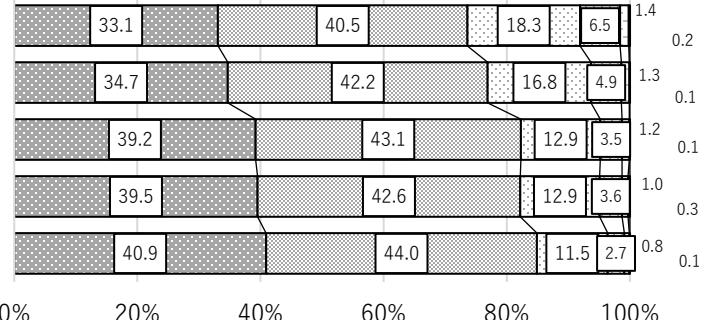
誰一人取り残さない学力の向上 (基本的な方向④)

児童生徒質問項目[35]
「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたり(広げたり)することができていますか。」令和7年度末目標値「当てはまる」と回答した割合 小学校35.0% 中学校35.0%

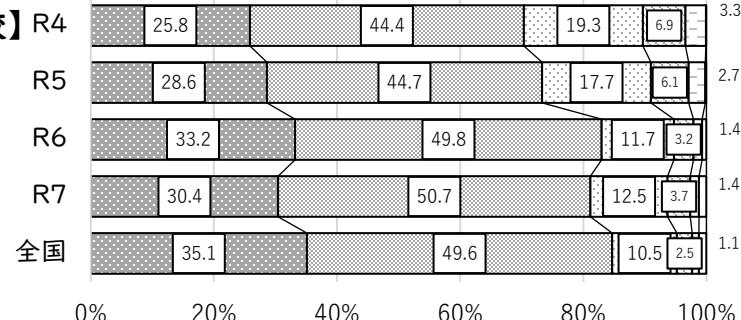
「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたり(広げたり)することができていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、中学校でやや減少しており全国と比較すると下回っています。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない □その他・無回答

【小学校】



【中学校】



学校外での過ごし方①

学校外での過ごし方

児童生徒質問項目[17][19]

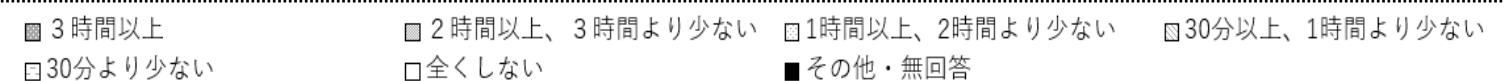
(平日)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」

(休日)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」

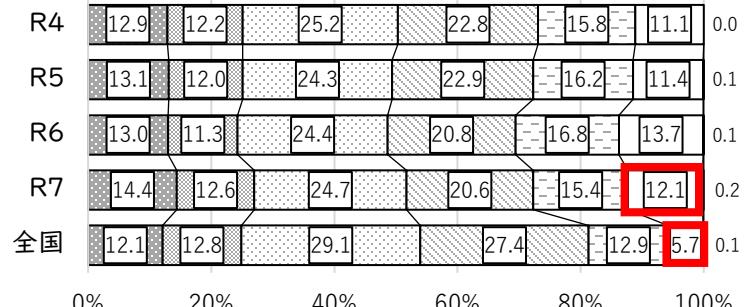
※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。

- 平日において、学校の授業時間以外の勉強を「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや減少していますが、中学校ではやや増加しています。
- 休日において、勉強を「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しています。

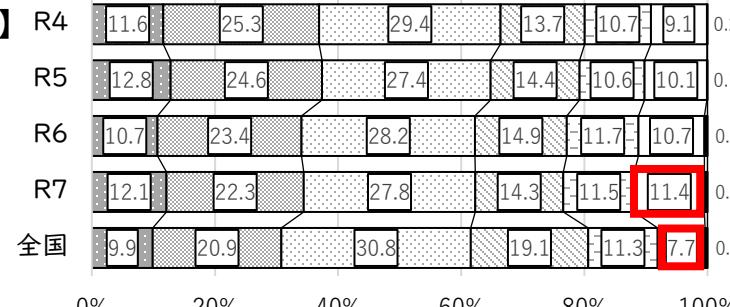
平日



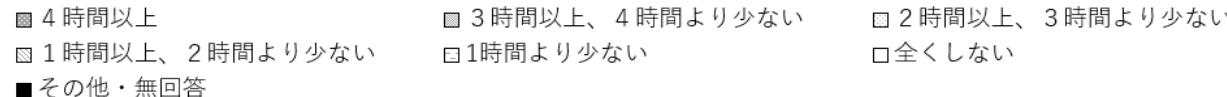
【小学校】



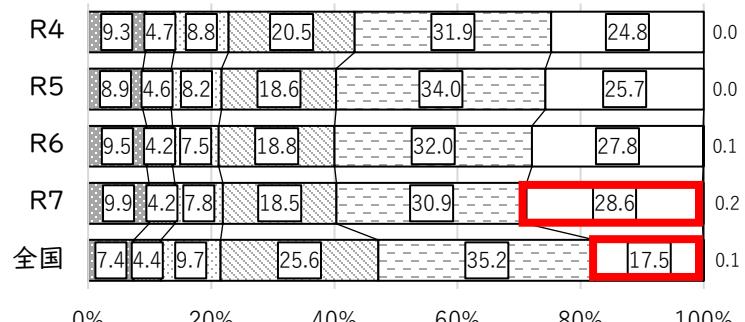
【中学校】



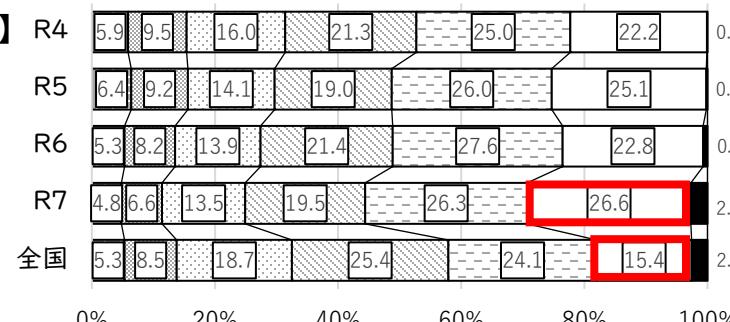
休日



【小学校】



【中学校】



学校外での過ごし方②

学校外での過ごし方

※「――」内の数値は相関係数を示しています。

※中学校理科においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

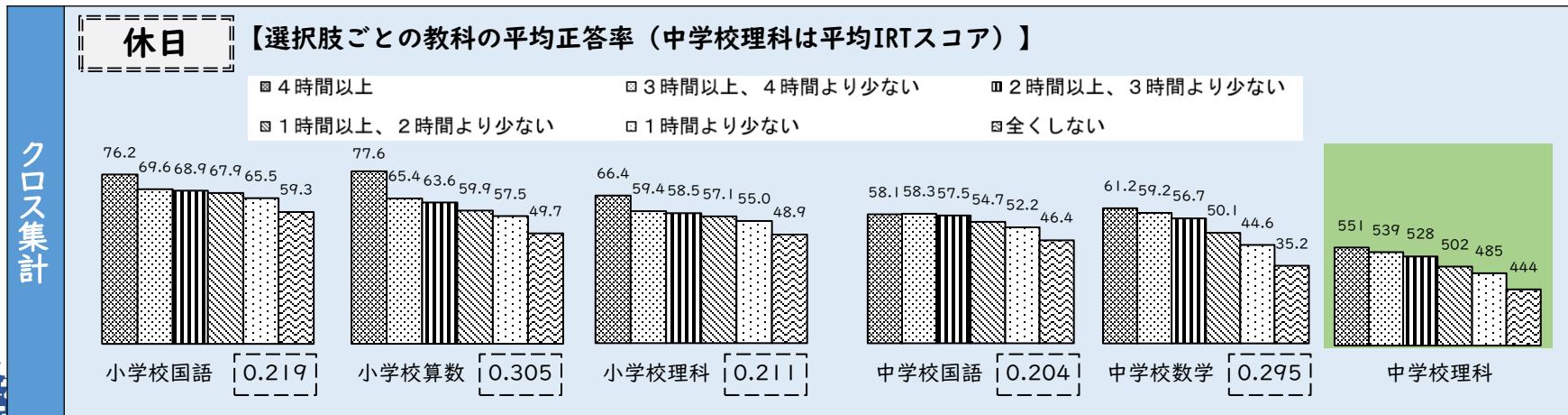
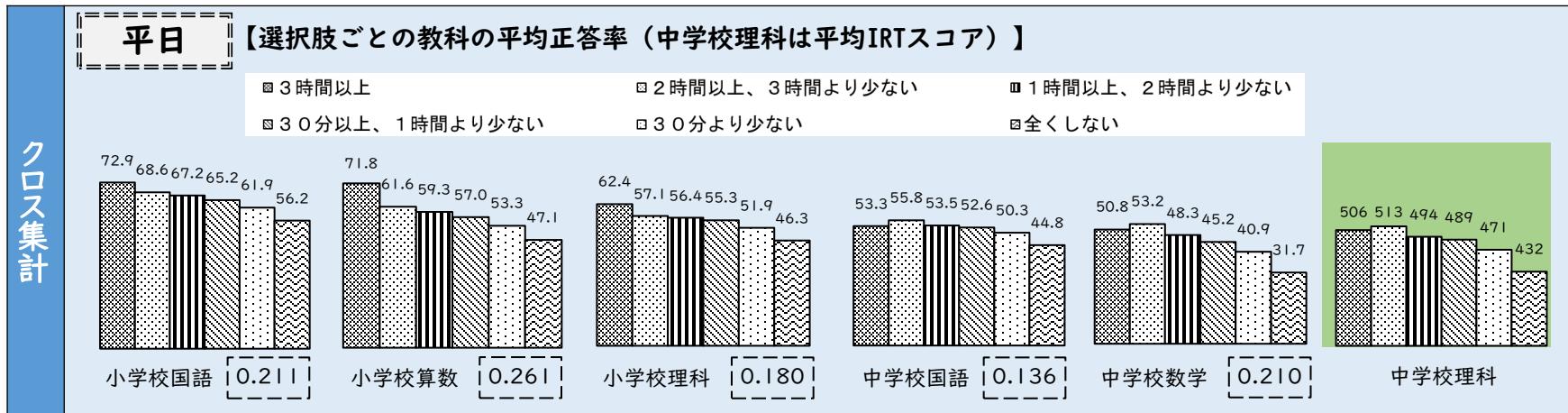
児童生徒質問項目[17][19]

(平日)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」

(休日)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」

※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。

平日や休日において、学校の授業時間以外の勉強を「全くしない」と回答した児童生徒は、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)が低い傾向が見られます。



学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組①

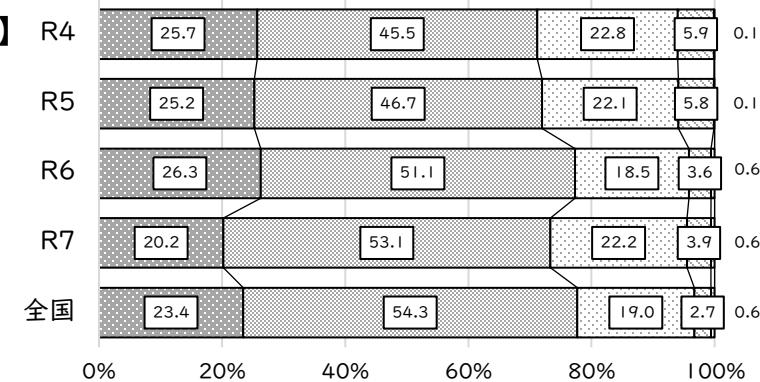
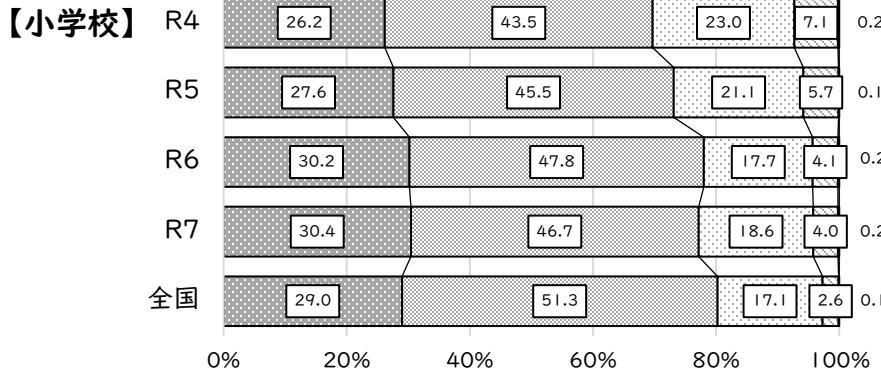
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童生徒質問項目[32]

「5年生までに受けた授業では(1、2年生のときに受けた授業では)、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」

- 肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや減少しており、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
- 肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)が高い傾向が見られます。

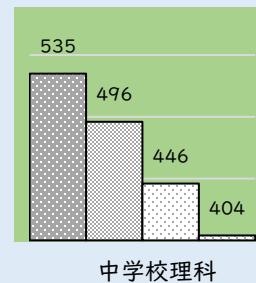
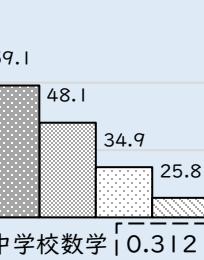
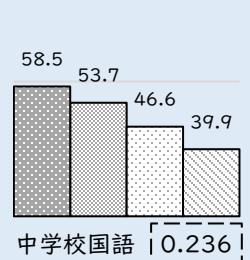
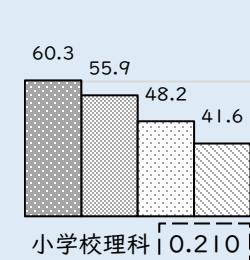
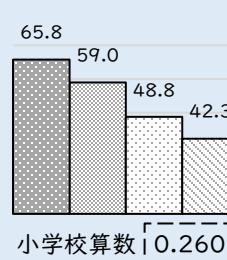
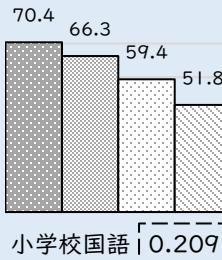
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



【選択肢ごとの教科の平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)】

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

クロス集計



学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組②

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

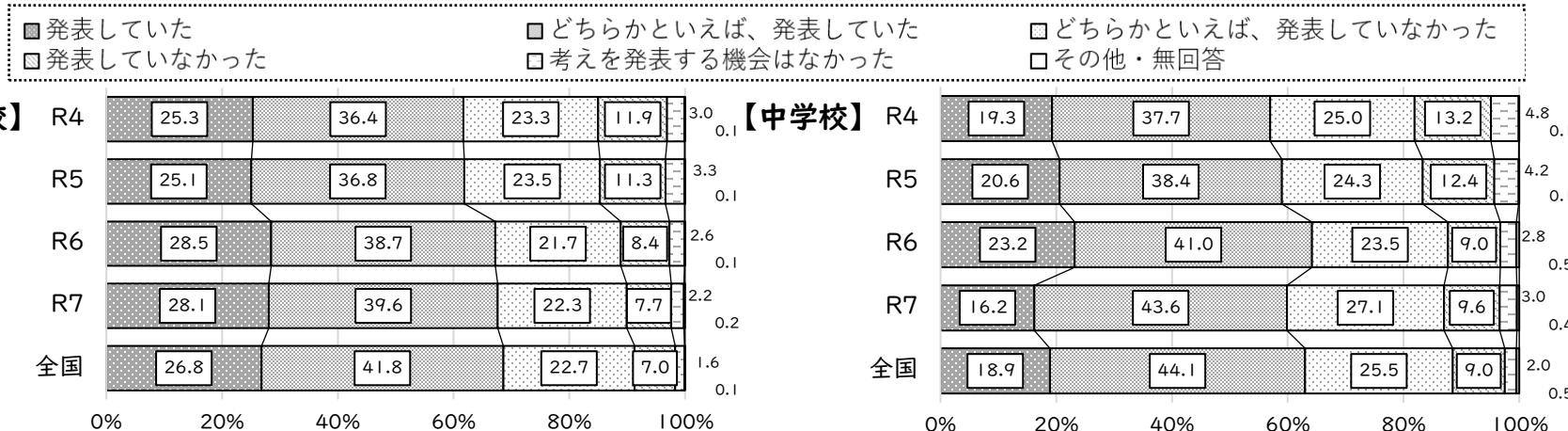
児童生徒質問項目[31]

「5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」

※「—」内の数値は相関係数を示しています。

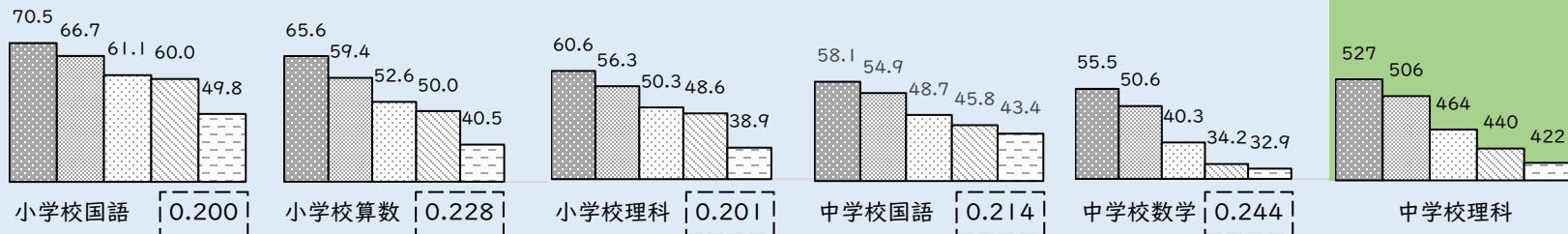
※中学校理科においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

- 肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
- 肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)が高い傾向が見られます。



【選択肢ごとの教科の平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)】

- 発表していた
- 発表していなかった
- どちらかといえば、発表していた
- 考え方を発表する機会はなかった
- どちらかといえば、発表していなかった
- その他・無回答



クロス集計

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組③

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

※□□□内の数値は相関係数を示しています。

個別最適な学び

「授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

個○ 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
個× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

【三重クロス集計】

児童生徒質問項目[34][39]

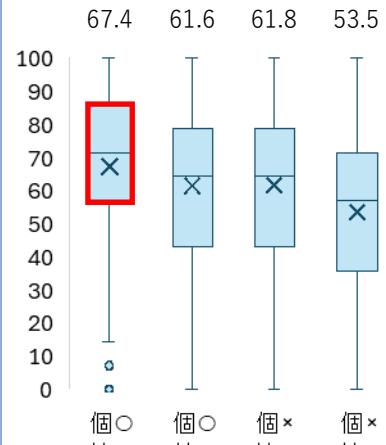
[個別最適な学び] × [協働的な学び] × [各教科の正答率]

協働的な学び

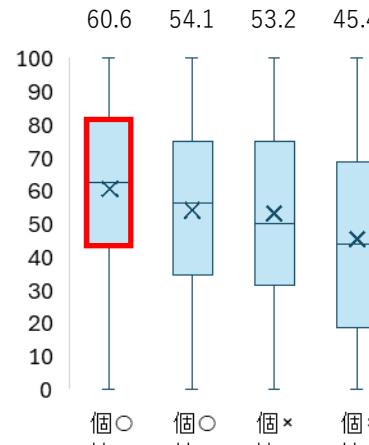
「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

協○ 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
協× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

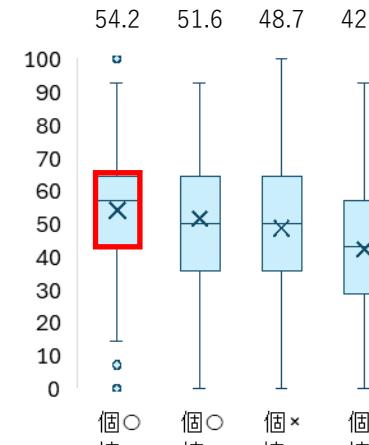
【小学校国語】 [0.156]



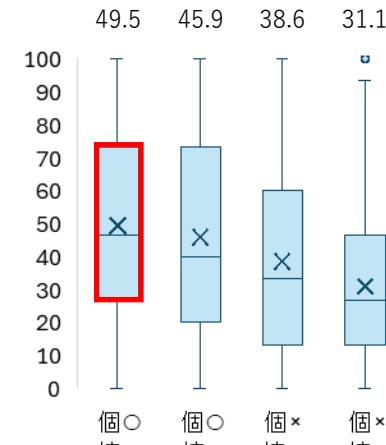
【小学校算数】 [0.157]



【中学校国語】 [0.156]



【中学校数学】 [0.186]



「各教科の正答率」

いずれの教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個○協○)は、正答率を表す箱ひげ図が最も上の位置(正答率が高い位置)にあり、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個○協○)の正答率は、他のグループの正答率よりも高い傾向が見られます。

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組④

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【三重クロス集計】

※□□□内の数値は相関係数を示しています。

児童生徒質問項目[34]×[39]×[46]・[54]

[個別最適な学び]×[協働的な学び]×[授業の内容はよく分かる]

国語の授業の内容はよく分かる

算数(数学)の授業の内容はよく分かる

「授業は、自分にあつた考え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

個〇 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
個× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

「授業や学校生活では、友達や周りの人との考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

協〇 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
協× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

いずれの教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個〇協〇)は、「授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した割合が最も高い傾向が見られます。

個別最適な学び

協働的な学び



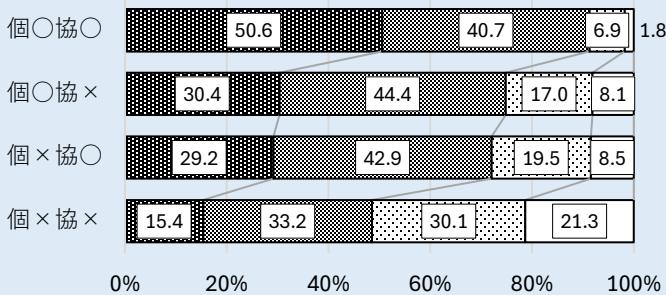
■当てはまる

□どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる

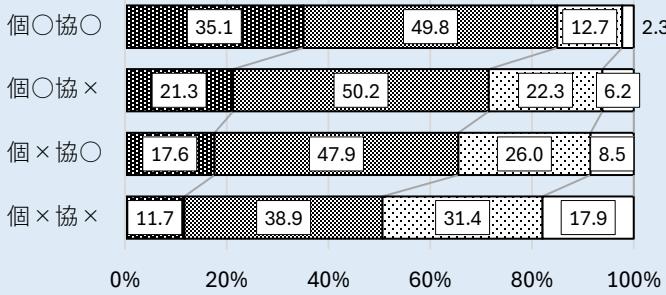
□当てはまらない

【小学校】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

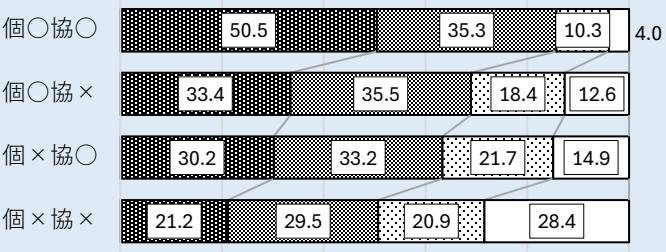
■当てはまる

□どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる

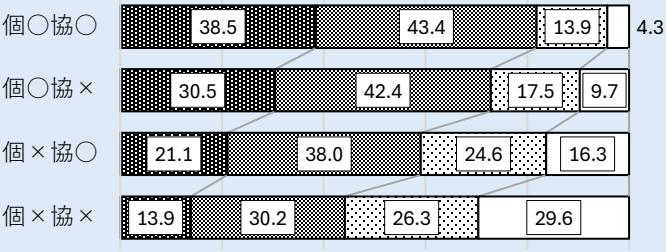
□当てはまらない

【小学校】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校】



0% 20% 40% 60% 80% 100%



学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組⑤

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

※「二二」内の数値は相関係数を示しています。

【三重クロス集計】

児童生徒質問項目[34]×[39]×[12]・[5]

[個別最適な学び]×[協働的な学び]×[学校に行くのは楽しい]・
[自分にはよいところがあると思う]

個別最適な学び

協働的な学び

「授業は、自分にあつた考え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

個〇 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
個× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない



「授業や学校生活では、友達や周りの人々の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

協〇 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる
協× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない



学校に行くのは楽しいと思う

■当てはまる

■どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる

□当てはまらない

【小学校】

[0.313]

個〇協〇

55.1 34.8 7.1 3.0

個×協〇

32.0 40.6 16.7 10.7

個〇協×

29.6 40.0 17.8 12.6

個×協×

19.8 31.1 24.9 24.2

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校】

[0.326]

個〇協〇

48.0 41.1 8.6 2.3

個×協〇

28.8 44.4 18.1 8.7

個〇協×

22.0 42.4 21.6 14.0

個×協×

13.6 32.6 26.6 27.1

0% 20% 40% 60% 80% 100%

自分には、よいところがあると思う

■当てはまる

■どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる

□当てはまらない

【小学校】

[0.251]

個〇協〇

57.5 33.4 6.1 3.0

個×協〇

40.2 39.0 12.8 8.0

個〇協×

39.0 34.7 15.3 11.1

個×協×

26.0 33.9 21.8 18.3

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校】

[0.221]

個〇協〇

44.1 45.0 8.5 2.4

個×協〇

34.3 44.0 15.8 5.9

個〇協×

27.8 42.8 19.1 10.3

個×協×

23.8 33.4 26.0 16.8

0% 20% 40% 60% 80% 100%

いずれの教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個〇協〇)は、「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答した割合が最も高い傾向が見られます。



主体的な学習の調整に関する分析①

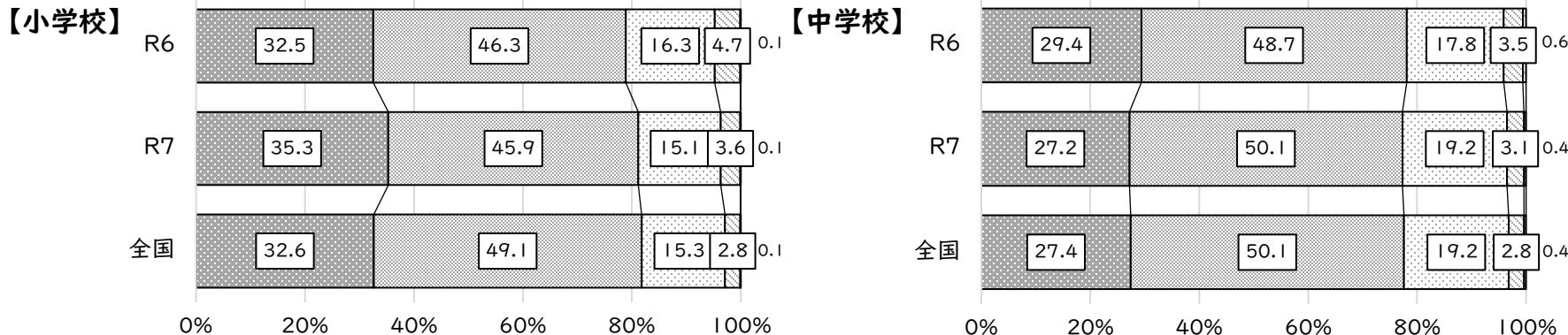
児童生徒質問項目[16]

※「□」内の数値は相関係数を示しています。
※中学校理科においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」

- 肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや増加しており、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
- 肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校理科は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。

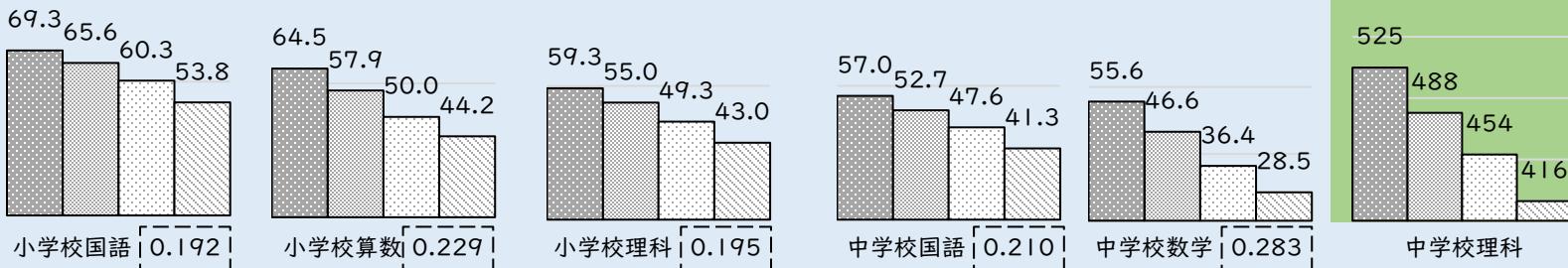
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校理科は平均IRTスコア）】

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

クロス集計



主体的な学習の調整に関する分析②

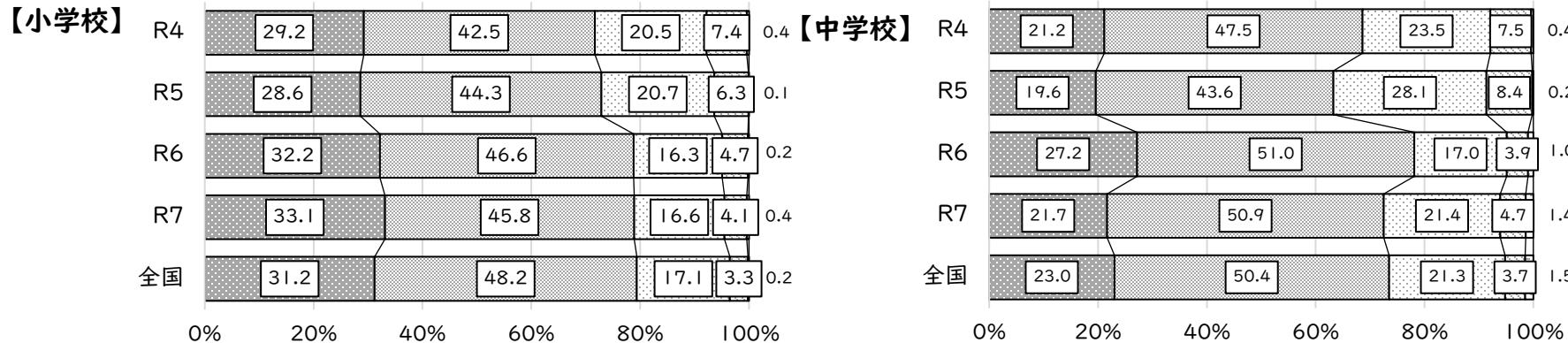
兒童生徒質問項目 [36]

※「—」内の数値は相関係数を示しています。
※中学校理科においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。」

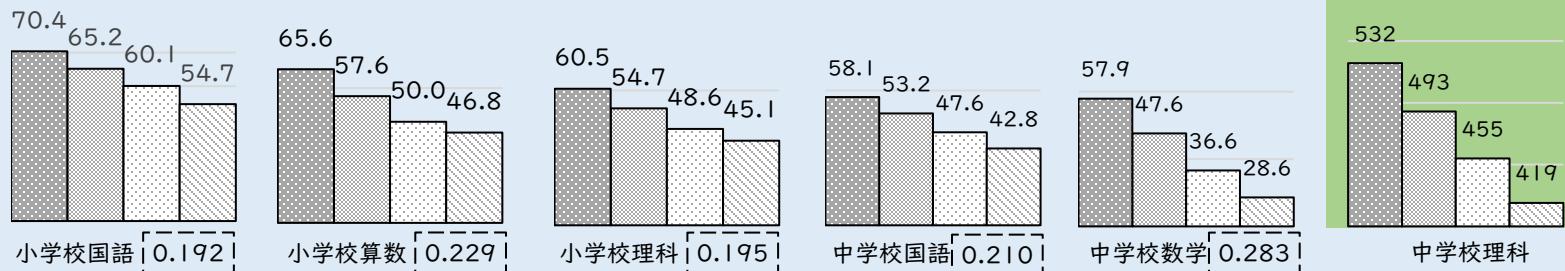
- ・肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校では同程度であり、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
 - ・肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校理科は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校理科は平均IRTスコア）】

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

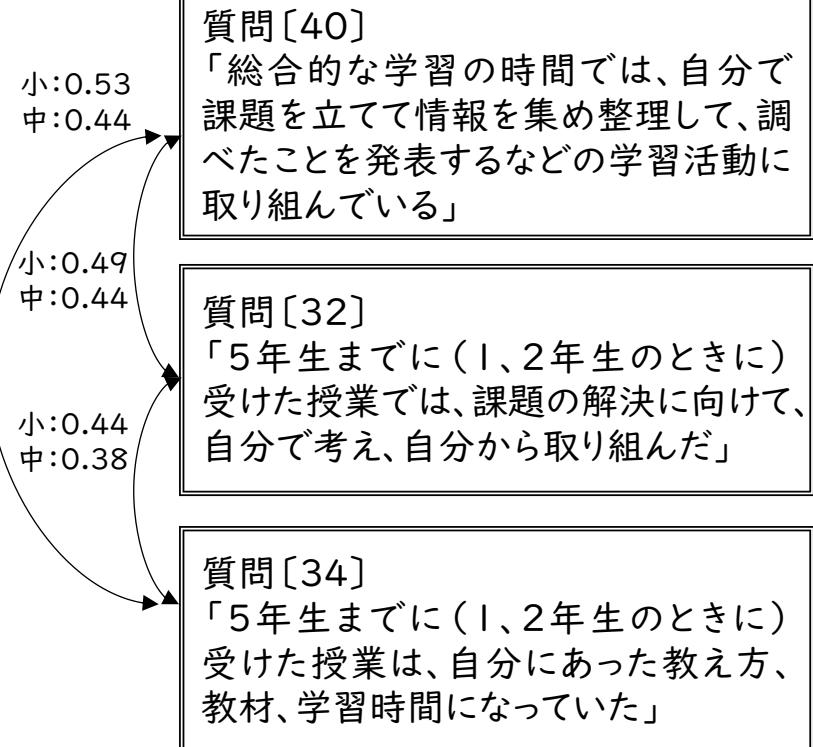


主体的な学習の調整に関する分析③

主体的に学習を調整する力を育成するためにも、「探究的な学び」、「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」の視点を重視した授業づくりは大切である。

主体的な学習の調整…自分の思考や行動を客観的に把握し認識(メタ認知)しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力 [参考:令和7年4月25日 文部科学省教育課程企画特別部会資料1]

共分散構造分析 (※)



質問[16]

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」

小:0.47
中:0.50

小:0.25
中:0.24

小:0.33
中:0.24

質問[36]

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」

小:0.76
中:0.75

小:0.69
中:0.66

主体的な学習の調整

(※)

- ・共分散構造分析とは、互いに関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析のこと。
- ・小学生16,721人、中学生14,061人を対象とした(各回答の無回答者は含めていない)。図中の小は小学生、中は中学生を表す。
- ・片方向矢印は標準化係数であり、絶対値が大きいほど矢印の先の項目への影響力の大きさを示す。両矢印は相関係数であり、二つの変数の関係を表す係数を示す。値が1に近いほど、強い相関関係を表す。
- ・すべて0.1%水準で有意。

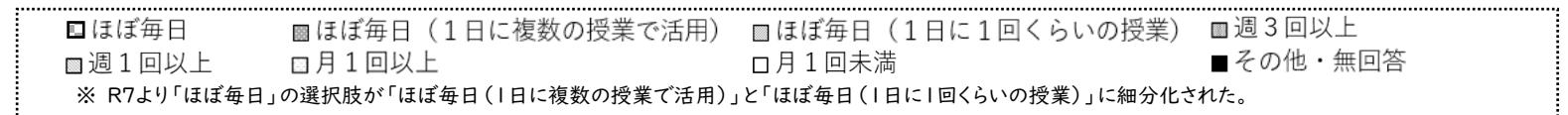
ICTを活用した学習①

ICTを活用した学習状況

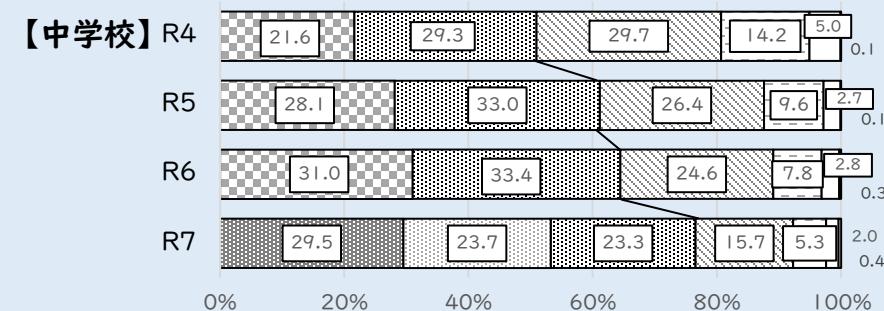
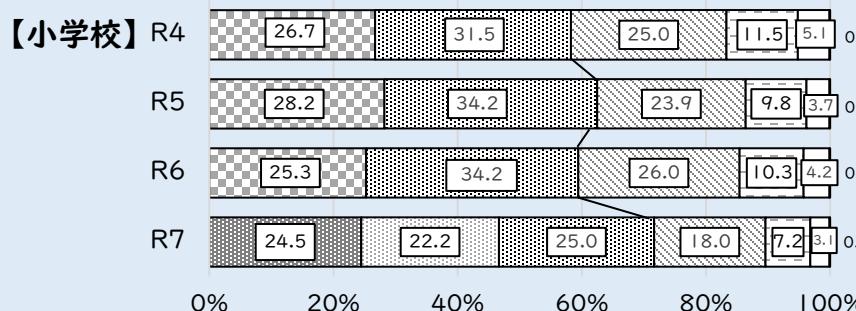
児童生徒質問項目[28]

「5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」

PC・タブレットなどのICT機器を「週3回以上」よりも高い頻度で使用すると回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに増加しています。



（参考）全国の推移



ICTを活用した学習②

授業におけるICTの活用【個別最適な学び】【協働的な学び】

※□二二】内の数値は相関係数を示しています。

クロス
集計
(児童生徒)

[ICTの活用頻度] × [個別最適な学び]

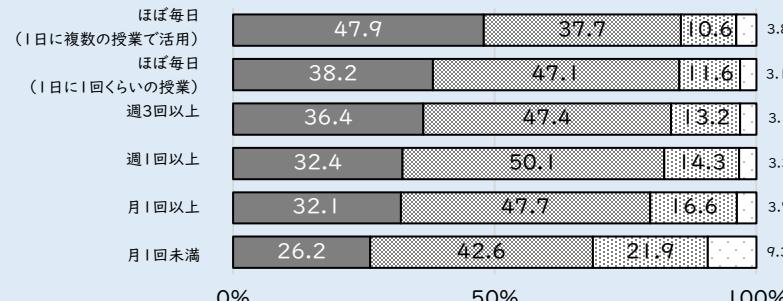
児童生徒質問項目[34]

「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

□当てはまる □どちらかというと、当てはまる

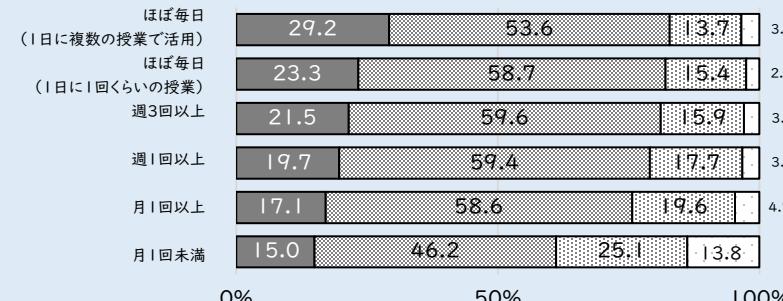
□どちらかというと、当てはまらない □当てはまらない

小学校



0% 50% 100%

中学校



0% 50% 100%

クロス
集計
(児童生徒)

[ICTの活用頻度] × [協働的な学び]

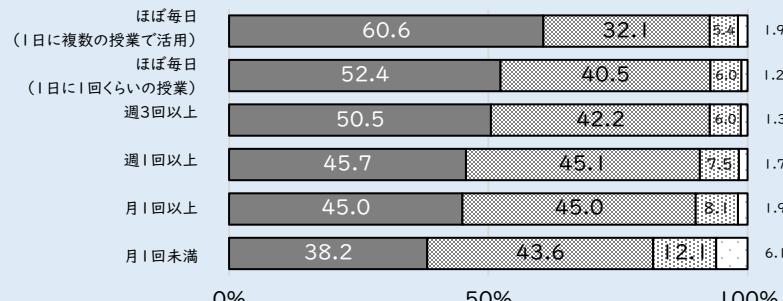
児童生徒質問項目[39]

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

□当てはまる

□どちらかといふと、当てはまる

小学校



0% 50% 100%

中学校



0% 50% 100%

ICT機器の活用頻度が高いほど、個別最適な学びや協働的な学びに関する質問項目で、肯定的に回答している傾向が見られます。

「児童生徒質問項目[28]」
「P
C
・タ
ブ
レ
ッ
ト
な
ど
の
I
C
T
機
器
を
ど
の
程
度
使
用
し
ま
し
た
か
。」



デジタル学習基盤を前提とした学習活動について①

背景

- 今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。
- 学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力等と並んで、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力と位置づけられており、情報技術を学習や日常生活に活用できるようになることの重要性が強調されています。
- 激しい変化が止まることのない時代を生きる今の子どもたちは、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増しています。

児童生徒質問の分析結果

- 授業でICT機器を「週3回以上」よりも高い頻度で使用すると回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに増加しています。しかしながら、全国比較では依然として低調です。
- ICT機器の活用頻度が高いほど、「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する質問項目で、肯定的に回答している傾向が見られています。

令和7年8月1日実施
「ICT活用推進に係る特別研修」より

- Society5.0時代に生きる子どもたちにとって、1人1台端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。
- 社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。
- ICTの活用は、知識の理解の質を高めるとともに、学びに向かう力の向上につながります。
- 「情報活用能力」を育成することは、子どもたちの最善の利益につながります。
- よい学び方とよい教え方は表裏一体です。子ども主体の学習活動を増やすからこそ、教師の「教える」を磨く必要があります。

参考資料

『子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～』『文部科学大臣メッセージ』(令和元年12月19日)、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(令和6年12月25日)、奈須正裕/伏木久始『個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を目指して』、【大阪市】ICT活用推進に係る特別研修『生成AI時代・GIGA時代の次期学習指導要領の方向性～見通しを持って現行教育課程と教育DXの実装を進めたい～』配付資料(令和7年8月1日)

デジタル学習基盤を前提とした学習活動について②

「学習者用端末ガイドブック（スタートガイド）」に基づく 「人」台端末活用方針

「人」台端末を使うことが目的ではないが、一定期間は「人」台端末を積極的に活用して慣れていくこと自体を目的にしなければ、いつになっても十分に活用できるようにはならない。

- 「心の天気」入力の徹底
 - 管理職による毎日の確認と担任への声掛け、組織化
- 端末は机の中またはバッグを利用し机横にかけて、いつでも使える環境を整備
 - 疑問に思うことをいつでも調べられるよう、授業中の端末活用ルールを工夫
 - 朝学習・休み時間・隙間時間にタイピング練習・デジタルドリルの利用を推奨
- 端末は毎日持ち帰り
 - 学級の連絡はすべてClassroom等で共有

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める。
(デジタルの力で、リアルな学びを支える。)

- 汎用性の高い学習活動からICT化を進める
(誰もが使えるシンプルな使い方)
 - ・学習教材および授業計画・記録のクラウド共有・配付
 - ・学習活動の導入や振り返りにフォームを活用
 - ・自分の考えをスライドにまとめ・共有し、共有された友だちの考えを確認する活動
- 学齢に応じた活用、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
 - ・デジタル教科書や動画教材の活用
 - ・デジタルホワイトボードを用いた話し合い活動
 - ・コメント機能を活用した意見交換
 - ・共同編集を活用した課題解決型学習

次期大阪市学校教育ICTビジョン (骨子案抜粋)

遊び・学びを通じてワクワク・

オモロイ未来の教育

【めざす子ども像】

- ・ICTツール等を活用しながら、興味・関心や能力・特性に応じて自己調整し、発達段階をふまえて自律的・探究的に学ぶことができる子ども
- ・多様な他者との協働により、自己の考えを広げ深められるよう学びをすすめることができる子ども
- ・ICTを安全に、効果的に使いこなすことができるデジタルリテラシーを身につけている子ども

【具体的な取組方策(一例)】

- ①安全・安心等における端末活用の推進
- ②徹底したデジタルリテラシー教育の推進
- ③授業における端末活用の推進
- ④自主学習・家庭学習等における端末活用の推進
- ⑤ICTを活用した「自律的・探究的な学び」の推進
- ⑥生成AI等先端技術の児童生徒の活用の推進